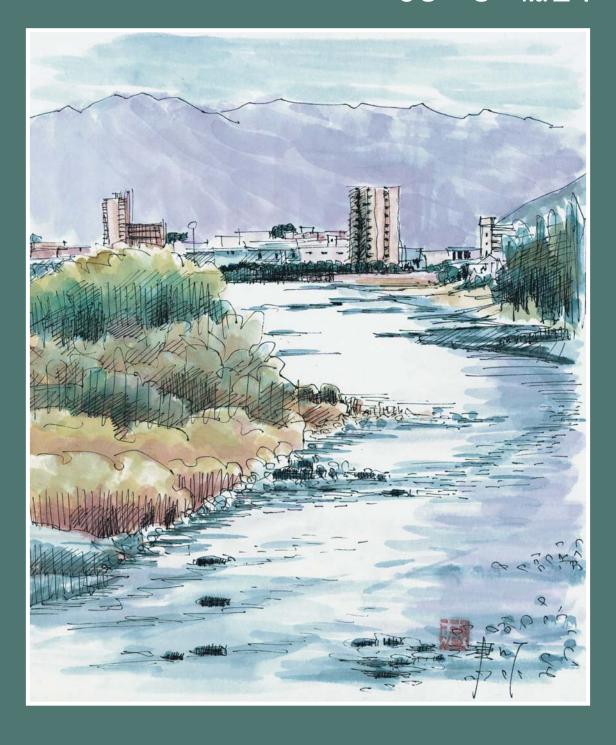
やまさき文化

 $^{'}05-3*N0.24$



山崎町文化協会

山崎町文化協会会長 木 俊

やまさき文化」第二十四号の発刊に当って

ります。 体も二十三団体となって現在にいたっております。 本年度は、 結成されましたが、昭和五十八年に山崎町文化協会と改称され、 当初は山崎町文化連盟という名称のもとに十九の文化団体が参加し 崎町文化協会創立三十周年を迎える記念すべき年になってお 参加団

も明らかな様に山崎町は文化面において素晴らしい発展を遂げてまいりまし 下で最も優れた文化活動の行われた二つの市町の中の一つに選ばれたことで であります。 た。これも皆様方の日頃の真摯な研鑽の成果であり、 その間、平成六年には〝兇地域文化を考えるシンポジュウム〟において県 ご同慶に耐えない次第

をよく聞きましたが、文化は心を豊かにするものであるということを考える 多くありましたが、その方たちから異口同音に山崎町というところは本当に い重要なことだと思います。 て互いに労わり合う人情味豊かな土地柄であるということも忘れてはならな /情味豊かなところで出来れば定年までこの地で勤め終えたいといわれるの 私は、過去において山崎町に転任して来られた県職の方と付き合う機会が 山崎町が本当に文化の香り高い町であるためにはこの他人の痛みを察し

さて山崎町文化協会も本年度を以って新しい変革の時を迎えることとなり

無い運営をして行きたいと決意を新たにしておりますのでよろしくご指導ご めてのことでもあり、 に市内の他町と同様に山崎町文化協会として統括されて新たに発足すること 粟市山崎町となります。 支援を賜ります様お願い申し上げます。 となります。当面の間事業内容としては変わらないと思われますが、何分初 ご存知の様に宍粟郡内四ケ町は町村合併により宍粟市となり、 篠山市など先進市に学びながら試行錯誤の中に誤りの 従って文化協会の組織も宍粟市文化協会の名のもと 山崎町も宍

\Diamond 目 次 \Diamond

長い目で見ると 道 来たのは誰? **壺阪会長追悼** 慶長遣欧使節異聞 役員 沙鴎

山崎郷土研究会の歩み 短 歌

健康でボランティア活動を 日本舞踊は心の表現 詩を吟じ思う 藤井山陽先生を想う 山崎八幡神社薪能と宍粟郡謡曲同好会

都多の獅子舞 民謡にささえられて

新旧をつなぐ

再び囲碁に出会って

山崎町子ども茶道教室を開設伝統文化を子どもに・・・ お茶の話

故郷慕情

川柳とは何ぞや

赤西国有林でモミジの観察会

地域文化振興に向けて幅広く地道な活動を継続

和太鼓を叩ける喜び 敬老会に参加して

事務局だより 私の生きがい

表紙題字 表紙画/カット/

俊介

久藏

編集後記

石田 尾嶋 小畑欽之助 安川英美子 藤間豊巳千 明治 24 24 23 23 22 22 21 21 20 20 18 16 15 11 7 6

山根善次郎

酔仙

27 26 26 25 25

久宗 丑雄

良造

塚田

雅視

30 30 29 28 28 27

2

慶長遣欧使節異聞

山崎文学会 林

沙

鄎

節派遣のきっかけとなった事件である。にこの事を幕府に知らせ、対処の仕方を求めた。これが伊達政宗の慶長遣欧使その知らせを聞いて驚いた水戸藩では早速遭難者らを助けて保護すると同時

ロドリゴに期待するところがあった。
ロドリゴが任終えて母国スペインに帰るため乗っていた。家康は、その前総督河着したスペイン船は北回り航路の船でその船には、前フィリピン総督ドン・う北回りと直接東方に向かう南回りの二つの航路があって、この度の岩和田にの北回の結果それはスペイン船であることが分かった。当時フィリピンはスペー

が優れていることを聞かされていたからである。というのは、家康は、秀吉晩年の朝鮮出兵、対フィリピン降伏勧告といったというのは、家康は、秀吉晩年の朝鮮出兵、対フィリピン降伏勧告といったというのは、家康は、秀吉晩年の朝鮮出兵、対フィリピン降伏勧告といった

たが、何ら進展は見られなかった。本来であれば、家康と親交のあったサンフの布教とスペイン船の日本寄港を許す代償として通商と鉱山技師の派遣を求めて、又同時に京都の商人田中勝助も同行させてスペインに派遣し、キリスト教と名付けてサンフランシスコ派の宣教師アロンソ・ムニョスを家康の使節とし慶長十五年八月一日家康は幕府の洋式船一隻をサン・フェナベントウーラ号

てムニヨスが行くことになったのである。ランシスコ派の長老ソテロを使節とするはずであったが、体調不良のため代わっ

を一隻造ってもらいたいという虫のよい要求であった。を一隻造ってもらいたいという虫のよい要求であった。これでいた。スペイン国王の意図するところは、当時ヨーロッパにおいて流布られていた。スペイン国王の意図するところは、当時ヨーロッパにおいて流布られていた。スペイン国王の意図するところは、当時ヨーロッパにおいて流布られていた日本近海にあると噂されている金銀島を探検したいということで、更に又この度の航海の不時に備えて、造船の技術者も提供するので幕府側で船更に又この度の航海の不時に備えて、造船の技術者も提供するので幕府側で船を一隻造ってもらいたいという虫のよい要求であった。

これを知った在府のオランダ人たちが

ので危険である」「スペインはキリスト教の布教を名目に日本を征服しようとして港を調査する

戻り、 内容というのは、 て、 カイノらは駿河に赴いて家康に謁見し、時計などの贈り物をして、再び江戸に 様にといったもので、 岸沿いの藩の港湾を調査しながら江戸に帰るという予定にしていた。 の様な経過を経て幕府では浦賀において新船の建造に着手し、その間にもビス ことにした。その頃家康は一方でオランダとの貿易も進めていたのである。 各藩ではその対応に腐心したに違いない 宿泊などの際は狼藉のない様、 出発にあたってビスカイノは、 と警告したが、海外貿易を望んでいた家康は、 往きは陸路をとって伊達政宗の居城仙台まで往き、 九月十八日東海岸の港湾の調査のため陸路を奥州に向けて江戸を発った。 一行の湾岸調査は幕府の許可したものであること、 十通手渡され、 また調査に当たっ 道中の安全と便宜を得るための朱印状を得 最後には幕閣の名が連署されていたから スペインの要求を受け入れる ては案内者をつけて協力する そこから折り返して海 通過又は 朱印状の

は藩主の奥平家昌から歓待する旨の使いを受けたが、丁重に断って、無償の馬一行は越ヶ谷、古河、雀宮を経て宇都宮までは総て自弁であった。宇都宮で

れから先訪れる藩のことを思うと懐がもたないからとのべている。うと藩主ともなれば羅紗その他の高価なものを贈らなければならないので、こ匹と一人の奉行の付き添いだけを受けることにした。なぜ招待を断ったかとい

大地震についてビスカイノにといった歓待ぶりであった。面白いことに秀行は、当時偶々会津地方に起きたてか、大層気を使ってスペイン風の肉料理を用意して秀行と二人で食事をする次の会津藩では藩主は、蒲生氏郷の嫡子秀行で、家康の女婿ということもあっ

「どうして地震は起きるのか」

の無さを現す面白い話である。と神やキリシタンの偉大さを抜かりなく説いている。当時の人々の科学知識重ねる者に改悛の情を起こさしめるために空気を震わして起こすものである」と尋ねている。それに対してビスカイノは「創造主の神のなせる業で悪行を

伊達政宗の居城のある仙台に着いた。いう愚痴を聞かされ馬匹の便は供されたが、早々と退去し、十月八日最後の地米沢では藩主上杉景勝から関が原の戦いで家康に背いて敗れ、減封されたと

と断っ 政宗の なる支倉常長もその行為に加わっている。 府の中で最大の実力ある領主であることを知っていて布教の便宜を得るために 護のもとに通事の傍ら布教に従事していた。 スト教の話を聴いた政宗は大いに感激し、 いう修道士に治させて政宗と親しくなっていたのである。 行に通事として随行していたサンフランシスコ派の長老ソテロは政宗の庇 て多くの者に入信を勧め、 籠 愛厚い一侍女の病を日本の医者では治せなかったものをブルギョと 寺院の破却や石仏の破壊を命じ、 自分は種々の事情で入信できないが ソテロは江戸にいた頃、 ソテロに会ってキリ 後に使節 政宗が幕

り、ビスカイノも政宗の厚遇にこたえて金襴やロンドンの黒羅紗など今迄にないし、貿易船も造りたいという希望を述べ、鎧二領、刀、銀二十枚などを贈成しで迎え、会談の席上ではキリスト教の布教の自由や、領内の港湾も調査後成しで迎え、会談の席上ではキリスト教の布教の自由や、領内の港湾も調査後

十四日まで滞在し、その間ソテロが通事を勤めた。い最も高価な贈り物をした。夜は芝居を鑑賞したり、家臣の家を訪ねたりして

したことを報告しその労苦を労らわれている。から獲物の鹿を贈られたり又、ビスカイノから月ノ浦港など多くの良港を発見明けて十五日から松島の海岸に出て港湾の調査を始めた。途中狩猟中の政宗

剣を交換して意気投合し、武人としての交わりを約している。 と武人としての鋭い観察をしている。 て出帆し、 京都などの調査の許可をとるため駿府に立ち寄り、 イノは上府していた政宗の邸を訪れて此処でも大いに歓待され、互に自分の刀 に帰り、 仙 肥満しているのは剛勇であるべき武将の子としては嘆かわしいことである 台領の沿岸の調査を終えると海岸沿いの藩を順次南に下って十一月末に江 京都、 早速江戸城で秀忠に謁見して湾岸調査の結果を報告した後、 大阪、 堺と訪れ大阪では秀頼が宴会や観劇に耽り、 家康の了解を得て西に向け その後更に堺、 惰弱に流 ビスカ

浦賀に帰った。 調査を終えたビスカイノは、その結果を駿府の家康に報告して六月十八日に

び浦賀に引き返さざるを得なくなった。船のため損傷も激しく到底航海に耐えられない状態となったため、やむなく再は打ち続く悪天候や嵐のため船員の士気も衰え、反乱的な空気も生まれ、老朽八月二十一日に国王が最も望んでいた金銀島の探検に出帆した。しかし、これその後、しばらく次の航海に備えて船の修理や物資の補給などに日を費やし、

の禁止を強化し始めたことである。の禁止を強化し始めたことである。に対していた為家康も漸くスペインを警戒しキリスト教貿易、外交顧問であるウイリアム・アダムスや在府のオランダ人達がスペインでからの返済を保障しての借金も相手にしてくれる商人は無く、その上ビスカイノにとって不利な事態が起きていた。それはビスカイノの不在の間に家康の本質に帰ってはみたが、損傷の修理に要する資金も殆ど底をつき、母国に帰って禁止を強化し始めたことである。

望みは全く絶たれ、心労の余り病の床についてしまった。加えて最後の望みの幕府の新造船も擱坐して失敗し、ビスカイノらの帰国の

これを救ってくれたのが政宗である。政宗は、家康に幕府に代わって新たに

国に送り帰す計画をソテロを介して申し出た。船を造り、それによって貿易のための使節を派遣し、同時にビスカイノらを母

前田といった大大名が健在では枕を高くして寝ることはできない。をどう処理するかであった。関が原で敗れたとはいえ、太閤恩顧の福島、加藤、家康を悩ましていた問題は大阪の淀君、秀頼母子とその莫大な財力を蓄えた城家康は、キリスト教とは関りのないオランダとの貿易関係を順調に進展させ

充分承知である。
たとはいえ、政宗が一と通りの武将ではないことは過去の出来事からも家康は康の六男輝忠の正室に政宗の長女五郎八姫をむかえ、松平姓まで許す迄になっ康の六男輝忠の正室に政宗の長女五郎八姫をむかえ、松平姓まで許す迄になっ政宗とて決して油断はならない。その嫡子虎菊丸に庶子の市姫を嫁がせ、家

将で信長亡き後、彼も又天下を望む武将の一人であった。
に伊勢松阪の城主蒲生氏郷を移封して政宗を監視する態勢をとった。氏郷といの名門芦名から奪った会津の地を召し上げて、その会津諸郡合せて五十二万石の名門芦名から奪った会津の地を召し上げて、その会津諸郡合せて五十二万石八ヵ国に移封し、続いて奥州仕置きでは、政宗には小田原攻め遅参の咎で奥州八方国に移封し、小田原攻めの後の関東仕置きで家康を駿遠から北條氏旧領関東

州の片田舎で巧みに互いをけん制させていたのである。()穿った見方をすれば、監視という名のもとでこの警戒すべき二人の武将を奥)

せた。
せた。
せた。
せた。
ということになると策謀して密かに檄文で扇動し一揆を起こさらの後一揆を鎮め、秀吉には氏郷の作戦の拙さと知らせれば、奥州は伊達でなその後一揆を鎮め、秀吉には氏郷の作戦の拙さと知らせれば、奥州は伊達でな済を起こし、その騒 擾 に紛れて鎮圧に向かう蒲生軍を氏郷もろとも殲滅し、済を起こし、その仕置きに我慢している政宗ではなかった。大崎、葛西地区で一

と断定され、家康らの取り成しもあって事無きをえた。これを聞いた家康の家鴿の眼には針の穴を明けているから調べて頂きたいと弁明した。穴は無く偽書たた。政宗は京の聚楽第に召喚され、その檄文を見せられた時自分の花押の鶺鴒をかしその檄文を家臣の裏切りにより手に入れた氏郷は謀反として秀吉に訴

宗の器量に免じて許したので、大将の器ではないか」「それを知らぬ秀吉ではないが、召喚に直ちに応じたことや偽書と弁明した政臣井伊直政は主家康に政宗の謀反は明らかで秀吉の不明を告げると、家康は

と逆に直政を、嗜めたという。

後見を約したことを聞いた時ともいわれた側近中の側近鈴木元信は、主政宗が家康の臨終に際し将軍秀忠のともいわれた側近中の側近鈴木元信は、主政宗が家康の臨終に際し将軍秀忠のそれでも政宗の天下への野望は揺るがなかった。後年、政宗の腹心とも智嚢

「我がこと終わる」

意気込んでいたのである。 られていた。元信だけでなく伊達軍団そのものが機あれば主政宗を天下人にと持っていた文箱の中には元信自身が唐の律令から編んだ「治国の法典」が収めと嘆いて 暇を乞うて居城志田郡古河に隠棲してしまった。元信が終生隠しと嘆いて 暇

慶長十八年九月十五日月ノ浦を出帆した。 援助といった使節の目的はうまく行く筈はなかった。政宗は月ノ浦港で新造船 を使節としてソテロとビスカイノら南蛮人四十人 の工事に着手し、 段と厳しくしていった。 意を迎えるに越したことはない。 る最大の実力大名となった政宗すらどう変わるか分かったものではない。 熟慮の末これを許した。幕府の基礎はまだ安泰とはいえない。 政宗の・ 大型新造船の許可とスペインへの使節派遣の申し入れを受けて家康は 完成をまってサン・ファン・バプティスタと命名、 キリスト教の布教の自由を代償に貿易や進んだ技術の その一方で家康はキリスト教の禁止政策を一 (を含む総勢百八十人を乗せて 今頼りにしてい 支倉常長 その

ていると伝えている。

さいる教徒三十万を部下に加え、その助勢を得て皇帝(将軍)の位に就こうとしいる教徒三十万を部下に加え、その助勢を得て皇帝(将軍)の位に就こうとして公に送った書簡の中で支倉常長の言として政宗は皇帝家康から迫害を受けてマ公に送った書簡の中で支倉常長の言として政宗は皇帝家康から迫害を受けている教徒三十万を部下に加え、その助勢を得て皇帝(将軍)の位に就こうとして政治が、政宗は、ローマ法王とスペイン国王に武器並びに有事の際の出帆に際し、政宗は、ローマ法王とスペイン国王への書状を常長に托してか出帆に際し、政宗は、ローマ法王とスペイン国王への書状を常長に托してか

使節の使命は失敗に終わった。ローマに於ける法王への謁見では市をあげて

リップ三世への謁見は不調に終わった。 ことと日本に於けるキリスト教徒迫害の報が伝わっていたからである。 の歓迎を受け、法王からは貴族に列せられる厚遇を得たが、スペイン国王フィ 日本の正式の使節と認められなかった

じた。 リスト教徒弾圧のあらしと主政宗の変心であった。国王フィリップ三世臨席の その居場所は無く、 もとドン・フィリッポ・フランシスコの洗礼名まで受けて日本に帰ってきたが、 の日本に待っていたものは出帆の時には思いもしなかった凄まじいばかりのキ 元和六年八月二十六日に七年ぶりに日本の土を踏むことが出来た。 過労もあってか常長は病のため一行に遅れ、 一説に口封じのため毒殺されたと野史は伝えている。 失意の中に病をえて元和八年七月一日五十二 メキシコからフィリピンを経て 一歳の生涯を閉 しかし、そ

故 壺阪前会長のご逝去を悼む

ました。 故壺阪前会長には昨年二月十三日病のため薬石効なく永眠され

のご功績を称えてご冥福をお祈り申し上げます。 ても余りある思いがいたします。 勿論のこと西播磨全域の文化の向上に尽くされ、 たって西播磨文化協会連絡協議会の会長も兼務しながら山崎町は の春で、その後亡くなられた平成十六年二月まで二十二年間にわ 顧みますと故壺阪前会長が会長に就任されたのが昭和五十八年 ここに謹んで生前の輝かしい数々 その死は惜しみ

合 掌

山崎町文化協会役員 一同

時期の都合で本号になりましたことをお詫び傍ご報告申し上げます。 (この追悼の詞は昨年度の機関誌第1 一十三号に掲載すべきところ編集、 印刷

第二十五回春の芸能祭ご案内

日 時 平成十七年六月十二日 (E)

午前十時から午後三時三十分まで

サンホールやまさき(山崎文化会館)

主

場

所

催 山崎町文化協会·山崎文化会館

後

援 神戸新聞社 • 山崎町教育委員会

ご案内申しあげます。 会員の日頃の練習の成果を、ぜひご覧くださいますよう、

参加部門 山 崎 詩舞道 連 盟 山 . 崎 謡 曲 同 好 会

山崎郷土芸能保存会 山崎邦楽邦舞研究会

さつき民踊グループ 播 州 山 崎 太 鼓

バンブー・ファイブ 山 崎 町 老人大学

(平成十七年三月現在の名称で掲載しています。)

来たのは誰?

山崎文学会 町 悦 子

時は ―― 江戸時代

の学派を生むこととなった。四、五百年もの時の隔たりは、経義において乖離を生じ、解釈を異にする多く四、五百年もの時の隔たりは、経義において乖離を生じ、解釈を異にする多くで、近代を持足の時代との思想であった。

の内実「性」を備える』とする石門心学を興した。として捉え、更にその中核に神儒仏三道に一線を画し且つそれと矛盾せぬ独自江戸時代の中期、京都の石田梅岩は、『すべての人間の本性そのものを「心」

ぬ心境を人間の中に求めて、その本性修業の途を説いた。そして忠義・孝行・勤勉などの徳目を、強いられずともそうせずにはおられ

あり、国元においても心学を広めたいと思った。進講し、その後も藩邸において度々講話を行った。忠可は大いに悟るところがかれて播磨山崎本多家五代目の藩主、本多肥後守忠可侯、その令室及び家臣に江戸における石門心学の講師中沢道二は、天明元年(一七八一年)四月、招

江戸から取り寄せた書物の筆写をした。と十六才の組、十七才と十八才の組の二回の講義をした。そして午後はずっとと十六才の組、十七才と十八才の組の二回の講義をした。そして午後はずっと本多藩の学問所の助教新谷 環 は、その日の正午までに藩士の子弟の十五才

彼は前年の九月に岡山からここへ赴任してきたのであった。

て、新しい書籍を買ったり、借りて写しとったりしていたのであった。友が多くあった。江戸詰めになっている者もいて、彼はそれらの友人に依頼し岡山藩は名君といわれた池田光政以来の心学の伝統があり、新谷は心学の学

武家屋敷の方へは行かずに、城の南側へ出る道を下りて行った。のをしていたので、どこか広い、のびやかなところへ行きたいと思った。彼は七つ(午後四時)になったので、彼は学問所を出た。長い時間ずっと書きも

にすべすべしていた。れていた。近づいて花びらにそっと触れてみると、蝋燭の小さなかけらのようれていた。近づいて花びらにそっと触れてみると、蝋燭の小さなかけらのよう道端にはうす黄色の小さな花をつけた低い木があって、まだ冷たい風に吹か

てくるのを感じた。すぐ春がくるのだ ―― 彼はそう思って鬱屈した胸の中が少しずつ明るくなっの微かな、しかしふくよかな匂いを楽しんでいた。 ―― この山国にも、もう―― 蝋梅というのだな、この木は ―― そう思いながら彼はしばらくの間そ

たのに気付いて慌てて地面に坐り、頭を深く下げた。入れの小屋の前へ来かかったとき、急に女が出てこようとして、彼が通りかかっ狭い農道の両側は青い芽を出した麦畑が広がっていた。道のわきにある農具

呟くように言った。「足が…」「なに、足が?私の足か、うむ」彼は苦笑した。はおそるおそる顔をあげて彼を見た。そして急にまた伏目になると小さな声でかせてしまった。私は侍ではない。こわがることはない、顔をあげてくれ」女「そのようにせずともよい。私が気ままにこのようなところを歩いていて驚

でやせがまんをしていた。よく気付いてくれた、礼を申す」の足はまだこの国の冬に慣れておらず、しもやけになってしまった」「くずれの足はまだこの国の冬に慣れておらず、しもやけになってしまった」「くずれの足はまだこの国の冬に慣れておらず、しもやけになってしまった」「くずれのとと変をはかぬことになっている。私は半年前に備前からきたばかりだ。私でも足袋をはかぬことになっている。私は半年前に備前からきたばかりだ。私でも足袋をはかぬことになっている。私は半年前に備前からきたばかりだ。私でやせがまんをしていた。よく気付いてくれた、礼を申す」

いた。「忘れぬ、忘れぬぞ」と彼は叫んだ。気がかりになって、うしろを振り返った。女はまだ坐ったままでこちらを見て気がかりになって、うしろを振り返った。しばらく行ったところで彼は何故か

れよりもお前がそう言ってくれたことを忘れぬ、と言いたかったのだろうか。しもやけの手当をするのを忘れぬ、と言うつもりだったのだろうか、いや、そ何故あのようなことを言ったのだろう、と彼は家へ帰ってからも考えていた。

百姓女に、この私が…。

できぬ ―― ある家伝の薬をもつと聞いている。まさかしもやけのためにそこへ行くことはある家伝の薬をもつと聞いている。まさかしもやけのためにそこへ行くことは―― それにしてもどうしたらよかろう。この藩の医家は槍疵、刀疵に特効の――

彼は考えあぐねて、食事の世話にきている老女を呼んだ。

ぞで分けてくれるよう頼んでみまする」すがな。ここいらではどこも自分らが作った薬を家にもっとります。私がどこたら教えてくれぬか、薬は要るのかな」「そりゃ薬をつけたほうが早う治りま「御用でござりまするか」「すまぬが、しもやけの手当のしかたを知ってい

ているようだ。彼は何となく安心した気持ちになった。誰もが確かな生活の術をもっている。そしてその輪の中に自分も入れてもらっ

湯で洗ったあと、 と細く裂いた布、 します」彼女は平たい箱のような形の包みを式台に置いた。 と彼は手をついて頭を下げた。秋田九郎太夫は本多家譜代の武士であった。 ち致しました。今日のうちにお届けしとうございましたので。申し遅れました、 頭を下げて言った。「突然にまいりまして失礼を御免下さりませ。 していた。彼がもう雨戸をたてようと立ち上ったとき、人の訪う声がしたよう 「それは忝けない。 こちらさまの向いに住んでおります秋田九郎太夫の家の者でございます。」あっ、 に思った。出てみると、土間の薄暗がりに若い女が立っていた。彼女は丁寧に 彼は袴をきちんと疊んだ。外はもう昏くなりかけて、 細い布を巻いて結び、 塗り薬、 布で押えるようにして濕り気をとり、 …九郎太夫殿の娘御でいらっしゃるのか」「はい、さわと申 油紙が入っております。 そのままお寝み下さいませ しもやけのところをぬるい 薬をうすく塗って油紙 部屋の中は冷えびえと 「乾いた柔かい布 お薬をお持

に漂っている残り香の中に、彼はじっと坐っていた。でいた仄白い顔や、声の響きや、包みを持った手の形を思い泛べながら、辺り―― 茫としていた ―― ついさっきまで、ここに、この黄昏の光の中に浮ん

「新谷環より 客分」呼取置候 秋田九郎太夫女 相応のものに候間 妻」

縁辺一取組仕度奉願候。

右之趣宣敷様御執成度被下奉願候」

「客分として呼取置く』にはまことに好都合であった。 秋田九郎太夫の邸は、道のすぐ向い側にあった。正式に嫁取りをする前に新谷は御側御用取次役に提出する婚姻許可願をつくづくと眺めた。

彼はくつろいで茶を喫していた。そばにはさわがいた。

わはうっとりとした目をした。 られる声が聞こえました」「ふーむ、このようにか」彼は低く詩を吟じた。さられる声が聞こえました」「ふーむ、このようにか」彼は低く詩を吟じた。さたいと思ってくれたのだろう」さわはクス、と笑った。「それは"声』でござましょう」「私のどこがそなたの気に入ったのかな。どこが良うて夫婦になりましょう」「私のどこがそなたいと思っていることがあるのだが」「何でござい

た。あったのう」さわのクスクスはオホホ、ホホ…になり、しばらく止まらなかっあったのう」さわのクスクスはオホホ、ホホ…になり、しばらく止まらなかっとか〝唇の形がよい〟とか言ってもらえると思っていたぞ、ハハ…うぬぼれで彼はふといたずら心をおこした。「声だけでござるか。私は〝目が涼しい〟

「芋代官といわれた人の話なのだ」皆が微笑した。「今日は少し分り易い講話をしよう」彼は年若い弟子達を前にして言った。

穫があり、台風や凶年に耐え、主食の代用品として好適であること。は苦しまねばならぬ」彼はこう前置きして、甘藷の栽培について話しはじめた。元和のころ(一六一○年代)甘藷は平戸のイギリス商館を通じて琉球からもけにはゆかぬ。大風や洪水や虫害・病害の甚だしい年には米は不作となり、人々りにはゆかぬ。大風や洪水や虫害・病害の甚だしい年には米は不作となり、人々りにはゆかぬ。大風や洪水や虫害・病害の甚だしい年には米は不作となり、人々けにはゆかぬ。大風や洪水や虫害・病害の甚だしい年には米は不作となり、人々けにはゆかぬ。

年)の大飢饉に一人の餓死者も出さなかったこと、同じ享保十七年、石見の国といわれた陶山訥庵が享保の初年以来島内に普及させ、享保十七年(一七三二薩摩や日向より、肥前、筑後に及び、伊予、松山にも広がり、「対馬聖人」

とを話した。とを話した。とを話した。とを話した。とを話した。とを話した。とを話した。それ故に「芋代官」「芋殿さん」と呼ばれて農民から慕われたこの後甘藷は凶荒に耐えて生育し、山陰筋から山陽道にひろまり、凶作のたびに救済のために幕府を動かして種芋百斤を薩摩から取り寄せて栽培したこと、その代官井戸平左衛門正朋が数年も続いた不作で過重な年貢に困窮している農民

り可申覚悟申候 年代の連続不作の困窮体験を自家の過去帳の裏に書き止めていたこと。 また村山郡谷地郷大町村の大町念仏講帳には、長雨で穂こぼれが甚だしい中で、 二倍になった米価、 まで押入、正~三月の猪狩に四百頭を獲た』こと、 秋に至てもはれず、 は て古籾三度めに蒔付申候、 一助・ぶんご・上石の品種だけは大当りとなり、明年よりは田作半分は上石作 聞かせた。 また別の日には、 "宝暦五年亥年四月九日より雨降り昼夜止ず、夏の土用寒きこと冬の如し、 享保十年(一七二五年)』と農事改良の記述もあることを話 出羽国村山郡北作村の名主樋口宇右衛門が一七四〇~五〇 田方不残青立。 "種蒔き申候処種籾悪しく候て生立不申三四度蒔、 是にて田植仕候に p *猪の田畑荒らしすさまじく夜は家の中 と農事体験の記録もあったこと、 餓死者の数、 半年余の間に 手前に それに

0 の の免除をした廉により罷免され、 収穫できぬうちに大飢饉に襲われ、独断で陣屋の貯蔵米を放出し、 は真実を語ったことにはなり得ない。芋代官井戸平左衛門は、 詳細に語るとすれば、 ば 治東力は強まり、 であり、 彼は重苦しさに耐えていた。 頭取りは死罪、 その村の百姓全部に科料が課されるのであった。 農民が情報伝達能力や優れた表現、 揆がおきた村の名主は重追放、 揆や強訴につながり易く、 聞く者はそれが全てであると思うだろう。 物事のある一面をとり出し、 謹慎を申付けられ、 記録能力をもてばもつほど農民 万一これらの農民騒動が起れ 組頭 翌年五月自刃して果てた は田畑取上のうえ所 それのみについて 植付けた甘藷 しかしそれで 多額の年貢

疲れ、半知借米令(禄の半分を借り上げること)の下で耐乏生活に苦しんでい盾で江戸藩邸の費用は厖大となり、国元の生活を圧迫した。家士は参勤交代に本多藩は財政難に陥っていた。しかし他の藩も同じであった。石高制度の矛

た。藩は既に一万両を幕府から借りていた。

いうのか ―― にれが現在のような窮状を招いた理由だと的に捉えることができない。 ―― これが現在のような窮状を招いた理由だとえやすく、従ってその発想も観念的、思弁的となり、社会や事物の変化を客観武士階級の知識人や、それにつながる朱子学者は社会的格式を不変のものと考武士階級の知識人や、それにつながる朱子学者は社会的格式を不変のものと考えやすく、従ってその発想も観念的、思弁的となり、社会や事物の変化を客観されている。があり、る思想や学説もそれぞれがあった時代の歴史を加えられて発展するものであり、

抱づよく教えた。 あ方や正しい意味がよく覚えられるように工夫を凝らした。厳しく、しかし辛業料は、貧学の者は紙一折にても可勝手次才』の塾を自宅ではじめた。字の読後は『百姓』少年の者 学問すべき所』として〝束脩(入学金)不要、授

はあの女の子供かも知れない」と思ったりするのだった。彼はずっと以前に農道で出会った百姓の女のことを時々思い出して「この子

たのだ」と思った。を駈けてゆく音を聞いた。常にはない激しい馬蹄の響きであったので「何かあっを駈けてゆく音を聞いた。常にはない激しい馬蹄の響きであったので「何かあっ或る朝、彼が学問所の朝の講義を終えたとき、二、三頭の馬が慌ただしく外

い。驚愕の余り叫んだ。しかし頭の中のどこかで「やはりか…」と囁く声がしてい驚愕の余り叫んだ。しかし頭の中のどこかで「やはりか…」と囁く声がしていていたとれている。彼は

は佐藤を近習士から奉行、家老へと抜擢した。本多忠可は既に二年前に亡くなっていた。家老佐藤善五右衛門景長は、忠可本多忠可は既に二年前に亡くなっていた。家老佐藤善五右衛門景長は、忠可

と忠可を援けて藩政に携わり、忠可に従って領地を歩き、自分の目で農作や農忠可は心学を修め、心意をねり、仁政を行うことを心掛けた。佐藤は以来ずっ

仕切っていた。 民の生活を見てまわった。忠可亡き後もその剛気は衰えることなく藩政を取

藩では人口が増えていたのだ!(宝暦十年~天明八年)忠可様への長年の御忠義、領民への思いやり。天明の飢饉のときですら本多

れてしまった、この困難な時代に我々には更に苦難がふりかかるのだ!佐藤様の他に誰がそれ程のことができたというのだ!もう我々の希みは失わ

私は何もできなかった。 ―― 私は佐藤様のように人々を助けたかった。佐藤様が苦慮しておられても

私は学問をやり直す!もっと多くの人々の役に立つ新しい学問をするぞ!

あろう。新しい学問がどうしても必要なのだ。うのではないが、世の中は変らねばならぬ。いつかは激しく変るときがくるで自ら進んで新しく書かれた書物を読むように。古いものをなおざりにせよとい「私の講義は今日で終りです」さざ波のような動揺が門弟達の間に伝わった。

低い者や小さな者たちにも ――」てやってくれ。紙や筆がなくとも、土の上にでも字は書けるのだから。身分のそれから、これは私の頼みだが、もし字の読めぬ者がいたらすぐにでも教え

— 二百年の時が流れた。

た。 平成十五年の秋、紅葉が美しいある日、本多記念館に一人の初老の男が訪れ

御覧下さい、ここに記録があります」と言った。 りを取出して繰っていたが た」と言ってプリントアウトした紙を見せた。藩士の名が並んだあとのところ 分るでしょうか」名刺には 祖がこの本多藩の学問所に勤めていたと聞いているのですが、本当にいたのか 「はい、分ると思います」学芸員はパソコンに向って検索をはじめ、 古い資料を整理していた学芸員は、滅多にない訪問客に驚いて立ち上った。 "学問所助教 「私はこういう者ですが」その男は名刺を差出して言った。 新谷環』の名前があった。学芸員は奥の戸棚から古文書の綴 「あ、 新谷 新谷様は本多藩士の娘と結婚しておられます。 某 とあり、農学博士の肩書きがあった。 一昔、 「分りまし 私共の先

表情は急に明るくなって嬉しそうにほほえんだ。まるで自分のことのように「おゝ」というような声が男の口から漏れた。白髪にふちどられた彼の顔の



道

山崎文学会 浅田耕二

ツツツっとせわしく啼く。

よい天気らしいがひどく寒い。布団に重ねていた袖無しを羽織った。前栽にきているらしいその小鳥の声で佐々主殿は目覚めた。

「お目覚めでございますか」

襖越しに隣室から声がかかった。

「ああ織部殿、もう何刻でござろう」

「ご無礼いたします」

開いた唐紙の向こうに志田織部の顔がのぞいて、

「そろそろ六ッ半(午前七時)でございましょう。今朝はお風呂を立てました

ゆえどうぞ。ご案内仕ります」

「うむ、それは有難い。では、頂戴しょうか—」

織部のあとについて廊下に出た。

「ほう、冷えると思うたら、今朝はまた大霜じゃの」

ている。 南天にも手水前の八っ手にも、むこうのお厩の藁屋根にも、真白に霜が降り

用を足してから湯殿に入った。

湯は熱かった。主殿は熱い湯が好きだ。そんな好みまで織部はみじかい期間

に、ちゃんとのみ込んでくれている。

ははーんと、彼はもう一度うなずいた。有難いことじゃ、と主殿はつぶやく。のうのうと湯の中で軀を伸ばしながら。

。 - 。 目覚める少し前**、**彼は夢を見ていた。もう十五年も前に亡くなった父の夢で

父の佐々靭負は、木刀の素振り二千回の朝稽古を欠かさなかった。今朝のよ

いには紅潮して汗で光っていた。うに寒い朝も、千回頃からは双膚脱ぎになり、そのたくましい胸や背が、しま

強要されたわけではないが、彼も十二の頃からその父につられて木刀の素振

りを始めた。

届いていたのだろう。 この湯殿の中まで聞こえてくる。さっき寝室で眠っていた彼の耳にも、それがこの湯殿の中まで聞こえてくる。さっき寝室で眠っていた彼の耳にも、それが、ないッ、やッ、と、どこかでやっているらしい朝稽古の気合いが、かすかに

広いこの村井家の屋敷の中で、誰かが励んでいるのだ。

の自分よりも、ずっと若々しいまだ四十代の姿であった。当家のご子息か、それとも、長屋のご家来衆だろうか―。夢の中の父は、今

「お召替えを棚の上に揃えております」

板戸の外から織部が声をかける。

゙雑作をかけて忝い」

「下着は尾張町の奥方様より昨日届きました。小袖と寒着は当家の心尽くし

にございます」

早口で言ってすぐに廊下へ出る跫音がした。

ゆっくり風呂を上がって主殿は再び母屋に通じる廊下を通った。

昨日の午后、織部と共に散歩に出た寺の屋根が、北国には珍しい晩秋のくっ

きりと晴れた蒼空の中で朝日を受けていた。

ことではなく、これも村井藤十郎の好意であった。 昨日の散歩は、主殿には久し振りの外歩きであった。が、正式には許される

二人は寺の裏塀と竹籔の間の道を歩いた。

二人共、少し酒が入っていた。

見上げると、寺の方丈の大庇の北の端に、片手にのる程の仔猫がいて、下をの急に、ミャアアという仔猫のか細い啼き声が頭上から聞こえてきた。主殿が

「織部殿、仔猫じゃ。あんな高い所へどうして上がったのかのう」ぞいてはしきりに啼いている。

1

「ふむ、猫でも飛び下りるのはこわいと見える。ま、あんな仔猫ではそれも

当然か。それにしても、 猫はしきりに啼く。 あたりが静かなせいか、いたいけな声がいっそう響く。 元へひき返す知恵はうかばぬのかのう_

下ろしてやるゆえ待っておれ_

「うむ、仔猫

一匹ついに進退窮まったか。

わしと同じじゃの。よしよし、今

殿はそれをとって、 見回すと竹籔の端に伐り倒した竹が、枝を払って四、 道から庇へさしかけてみたが、古い築土が邪魔になって届 五本ねかせてある。 主

「あすこから入ろう」

大きな寺だがここも手元不如意と見えて、目立たぬ裏塀は所々土が崩れてい 主殿はそこから竹をかついで入りかけた。

「もし佐々様。 万一寺僧にでも見つかれば咎められますゆえ・・・」

わがって下りてこぬかも知れぬ。お手前も一本かついで下され **「なに、すぐ済むゆえ大事あるまい。そうじゃ、一本の竹ではあの仔猫はこ**

織部が本堂の横で落葉を掃いていた若い寺男にいうと、若者は気軽に梯子を 「それなら手前が寺男に話して梯子をかけさせましょう。暫くお待ちを」

おびえて居すくんでいた仔猫は、 かけて庇へ上がってくれた。 主殿は塀の外で見物していた。 難なく若者の片手につかまれて地面へ下ろさ 織部は塀のうちの梯子の下で見上げている。

「ほう、こりゃあ可愛い」

はかないばかりの仔猫のいのちが、 て一見太っているようだが、手に触れるとかぼそい骨のもろさ、 主殿はてのひらにのせてしげしげと見つめた。 指先に伝わる。 ふさふさとした毛におおわれ 肉のうすい、

々殿は動物がお好きですか

いや、格別さようなわけでもないが

一大か猫をお飼いになった事がおありで」

やいや、と手を振って主殿は歩く。

ゅうござる」 年がら年中、 **債鬼共に追いまくられておったゆえとてもとても。** お恥ずか

L

さがつき上げてきた。 に人影はない。右側は灌漑用の溝、 と突然大声でわらった。声が金沢長町の細い路地に響いた。閑静な武家町で他 ほんとに主殿はおかしかったのである。胸の中に不意に得体のしれぬおかし そして織部の顔をちらっと見て照れたように首をすくめてみせて、 左は前田家の大身の武家屋敷、 真直な道だ。 ははは、

そしてふと気がつくと、借金の山の中にいた。 れて下手だったとも思えない。が、父が亡くなり、 格別自分も妻の多恵も浪費家だったわけではない。 その二年後に母も薨って、 世帯 のやりくりが人並外

するつもりであったが、そのまま忘れてしまっていて一年たって催促されて初 めて思い出した。 最初は組内の小山内の隠居から銭一 一貫文を月三分で借りた。 当座はすぐ返済

達はあきれた顔をした。それはそうだ、そうに違いない。 人に借金をして忘れていたというのは話にならない、 迂闊きわまる、 と朋輩

し、とつい多寡をくくった。それが最初のつまずきだった。 が、銅銭二貫文は二百疋、一疋は十文だから二千文、なに、 大した額ではな

藩の備荒お積立金の中から十両借りた。当然ながらこれにも利子がつく。 払って返済したが、半分残った。お重役の塩垣平馬殿の格別のおはからい それを返すのと他にも少し入用があって、また借金した。年末に禄米を売り

ねばならぬ、 塩垣殿はなぜだか至極あわてていて、 その上、 借用期間半年の約束だったのが四カ月後に急に返済の催促を受けた。 と仰せられた。 其の方が返さなければ、 わしが腹を切ら

ときつかった。 月五分である。 から二十両借りて、うち十二両を塩垣殿の眼前へぽんと威勢よく出してみせた。 よるのに主殿はすっかり嫌気がさして、 六千石取りの塩垣殿が、たった十両で腹を切るの切らぬのと顔色をかえてつ 胸がすっとしたが、しかし、 町人の金貸し、 この新兵衛の借銀の方が実は、 東屋新兵衛という男 もっ

先借銀でどうにも身動きできぬ所へ追いつめられた。 利息だけを支払うために新しい借金を重ねる始末で、二年後には約一 一百貫文

屋敷の屋根がいたんでもなおせぬから、 雨が降ると雨漏りがひどく、 屋内で

傘をさす有様である。

衛門が執行した。財の管理監視は采女殿である。所帯、七百石を借金返済にあてることになった。その差配はすべて親類の佐々所帯、七百石を借金返済にあてることになった。その差配はすべて親類の佐々のいに組頭の増田采女殿の指図で俸祿千石をさし押さえられ、うち三百石で

分にふと気がついて暗たんとなった。てもきいてもはかなかった。物事はすべてひねくれて考えてしまう。そんな自で、三年、それが続くと、さすがに息が詰まった。次第に憂鬱になり、何を見っまり主殿は自分の祿でありながら自分の自由には一切ならなくなったわけ

ええ、ままよ、半分自棄になって、それでまた借金に手を染めた。まみれになったのであるが、これでは何のために生きているのかわからない。元々、彼は陽気であまりものを苦にせぬ性であった。尤も、だからこそ借金

これを提出した。それがいけなかった。頭を通して藩に借銀を願い出たが、組頭が願書を受付けない。仕方なく横目に頭を通して藩に借銀を願い出たが、組頭が願書を受付けない。仕方なく横目に昨、延宝五年五月、家の屋根の破損がもうどうにもならなくなり、主殿は組

三日後、目付柴木平左衛門殿に呼び出された。

て沙汰いたす」りに金銭の借用いたし候段、重々不届、よって身柄を村井藤十郎方に預け、追っりに金銭の借用いたし候段、重々不届、よって身柄を村井藤十郎方に預け、追っ「其方儀、此度順序たがえをいたし、かつ、かねてより家を治め得ず、みだ

を伝えた。 を伝えた。

十一日後の十月十日、当村井屋敷において切腹、である。

物だったのであろう。 物だったのであろう。 本る涙がふくらんだ。主殿とは格別親しい間柄でもなかったが、そのような人 下座に手をついている主殿を血走った目でじっと見つめた。と、その目にみる 使者の植垣甚左衛門は上意書を読み上げたのち口は真一文字に閉じていたが、

次の間にひかえていた藤十郎も、蒼ざめた顔で主殿を見た。

殿の顔が一番生気があった。藤十郎はほっと肩の力を抜いた。 「謹んでお受けつかまつる」とこたえて平伏し、やがておもむろに上げた主

ああ、これでやっと債鬼共の責地獄から解放される、とでも言っている主殿

の顔であった。

して一番恥ずかしいことです」「武士の子が物や金銭に執着したりしてはなりません。物欲、吝嗇は武士と十郎の命で世話してくれている志田織部の心利いた扱いも、至極うれしかった。実際、村井邸に移ってからの主殿の身辺は、まことに平穏静寂であった。藤

ろぼすとは思ってもみなかったろう。幼時、彼にそう教えた祖母の美都も、よもや自分のその教えが将来、孫をほ

仕方がない、あれはあれで正しかったのだから、と、主殿は苦笑する。

いた。が、つと右手に箸を持っただけですぐに置いた。 湯から上がって四半刻後、主殿は織部の案内でいつもの部屋で朝飼の膳につ

村井家の心尽くしの別離の宴は、昨日の昼すでにすませている。

ていますが、いかがでしょう」
「もしよろしければ、時刻が参るまで主人藤十郎が話し相手をしたいと申し

織部がいう。さだめの時刻まではまだ一刻近くもある。

ご迷惑でなければお願い申す」 で迷惑でなければお願い申す」 「それは有難い。実は、それまで時間をどう潰そうかと思案していた所です。

「それではこちらへお越し下され

廊下を左へ折れた別棟の一部屋へ主殿は案内された。

広縁を隔てて中庭に面した八畳の間である。障子は二枚分開けはなしてある

、炭火が熾っている大きな火桶の傍へよると、寒くはない。

るのが、何やらいたいたしい。日向の霜は溶けていた。柊の日蔭の万両が霜の中に赤い小さい実をつけてい

く掠めたがすぐ見えなくなった。ミソサザイらしい。 大手の廊下の高い床下に、つと幽かな翳が動いた。二、三度、背後の光を黒

待つまもなく村井藤十郎が入ってきた。

主殿より三歳若い。丸顔肥軀のおだやかな人物である。

昨日の猫の話、今朝の朝稽古と夢に出てきた父のこと、とりとめもないそん火鉢に手をかざして対い合ったが、別段あらたまった話があるわけではない。

む。 な事をとぎれ勝ちに主殿がしゃべり、藤十郎が笑顔でうなずき時々言葉をはさ

そのうち時刻になった。

は立ち上がった。藤十郎も礼をかえす。 では、と目礼して主殿 あらたまったあいさつは二人はすでに済ませている。では、と目礼して主殿

庭の霜はすっかり溶けていた。

七歳の生涯である。 巳の正刻(午前十時)に村井藤十郎の離れにおいて主殿は腹を切った。五十

て織部に贈った。て織部に贈った。筋差は山城国式部烝信国、これもかたみとしてもらうよう約束ができていた。脇差は山城国式部烝信国、これもかたみとしれは主殿の希望である。介錯の刀は備前祐定の逸物で、死後は藤十郎に受納し介錯は同族の佐々源内、一ヵ月前に長い江戸詰を解かれて帰った人物で、こ

郎は僅か十一歳の少年である。は前田虎之助邸、三男平五郎は蔦葛巻十右衛門邸で、それぞれ切腹した。平五は前田虎之助邸、三男平五郎は蔦葛巻十右衛門邸で、それぞれ切腹した。平五主殿の切腹と同時に嫡子孫助三十二歳は前田万之助邸、次男左平次二十二歳

予測していたかどうかはわからない。 での子が死罪になる事は主殿には一切知らされていなかった。彼がそれを

(登録してもこれだけは手をつけなかったのだ。) 主殿の死後、藩吏によって家財をあらためた所、雨漏りのため唐紙、畳など 主殿の死後、藩吏によって家財をあらためた所、雨漏りのため唐紙、畳など 主殿の死後、藩吏によって家財をあらためた所、雨漏りのため唐紙、畳など 生前、藤十郎にも織部にも、子供の事は主殿はひと言もたずねなかった。

これが加賀前田氏の家中で主殿の死後、話題になった。

があった。
いだろうが、彼女もまた夫に負けず劣らず鷹揚で、物や金銭には恬淡とした所いだろうが、彼女もまた夫に負けず劣らず鷹揚で、物や金銭には恬淡とした所は千石であったが内所は豊かで、多恵は何不自由なく育った。そのせいでもな主殿の妻多恵は、藩老本多氏の家臣篠井雅楽助の長女である。雅楽助も祿高

嫁入りの際持ってきた多くの衣装、調度類も、すべて質入れしたり売り払わ

夫の死後は四人の娘をつれて実家に帰った。れたが、彼女は平気で、いつも洗いざらしの衣類を身につけていたという。

れ慕われた。 女中達の面倒をよく見たから、主人夫婦をはじめ本多家の奉公人からも信頼さ女中達の面倒をよく見たから、主人夫婦をはじめ本多家の奉公人からも信頼さ二年後に本多家の年寄女中となり、松本と名乗った。温和でやさしく、若い

没年は元禄元年(一六九六)十月である。年齢はわからない。



長 い目 で見ると

-葉大学教授 本

山崎町福原 出身

0

として来ましたが、 まし れ されませんでし 0 局ずっと東京に住んでいますから、 つとして、 一十八年も経ったことになります。 研究を始めた一 最近では ています 公園を作るのは、 大学に入学したの 学生の時から、 特に猛暑の際にはよく取り上げられるようになってきました。 「ヒートアイランド」という言葉も一般的に使われ、 たが、 一十数年前には、 数少ないヒー 現在は、 が昭和五十 現在では、 「都市公園が周囲の気温に与える影響」 様々な環境情報について研究するのが仕事です 年 都市 その効果が注目され、 トアイランド対策の一つです。 東京暮らしの方がだいぶ長くなってしま 勤め先の大学はいくつか移っ 公園が周辺を涼しくすることは余り理 九七六年) ですから、 屋上緑化などが検討 Ш 私が都市公園 を研究テー 崎を出 都市問題 たものの、 てもう 都市 0 解

ラー というように、 これだけクーラーが普及してくると、 ¬たり前というようなライフスタイルを**、** て、 かし、 0 より暑 ラー 代わりにはなりません。 実は が無かっ いわば悪循環に陥 都 環境を作り出し、 市緑地によっ た頃も、 皆それなりに暮らしていたわけです。 やはり、 て気温が下がる効果は僅 それがまたクー っています。 その室外機が出す廃熱が周 夏でもビジネスマンは背広を着るの 何とかしないといけない ラー を必要とする理 かなものであ 囲の温度を上 でしょう。 ところ り 由となる クー が

いどころか、 は皮肉なことです。 景気を良くする、 エ ネル ギー GDPを増やすという観点からは、 エネルギー 消費を増大させ問題を悪化させる方向に向かっている 問題の多くはこんな調子 ,で抜 れがプラスに働く 本的 な解決策が無 0

らが立たずといった様相で、 ています。 経済成長の為に 経済成長、 は エネル ネ ル ルギー この状況をトリレンマと言います。 ギ が大量に必要であ 問題 環境問題は、 り あちらを立てればこち そ れが 環 トリレンマに 境 0 悪化 を招

> 陥っている文明は、 そう長くはない、 そう長続きはしないだろうと思われ と言っても、 歴史を見る目で

す。 とりあえず自分の世代は多分大丈夫ということについては、 なる前に、 うしようもなくなるか、エネルギー資源が決定的に不足するか、 までは数十年かも知れないし、 が常となっています。 京都議定書のように、 人類の叡智により状況が打開されるか、 対策も検討されてはいますが、 数百年かも知れません。 「長くはない」 様々なシナリオがあり得ま 地球環境が悪化してど 残念乍ら、 問題を先送りする 或いは、 わ けで、 人間 そう 破綻 は

域では、 た今の かと思われます。 拡がっていますから、 無いこともあって、それほどハイテクを駆使しなくても、 前に造られた建物が今でも十分使用可能というのは珍しくありません。 化石エネルギーが枯渇しても、 ところでヨーロッパ、 建物も相当の耐久性が期待されます。 数百年前と比べても、 農作物も自給可能な程度は生産できそうです。 特にフランスやドイツの小さな都市や 豊かな生活ができそうな感じがします。 人口密度はそれほど変化していないのでは 都市の周りには、 同じような技術で造っ 広い農地や森が 田舎に行くと、 多くの 地震が 数百年 な 地

も考えられます。 きる人口」 (専門 用 語では、 に近づ 地域が生態学的に維持 て行く過程の、 側 面

期的 較的 した現代の日本に、 にある言葉です。 「長い眼で視る」 時間の単位で見がち で洞察することは、 我々は、 というの 特に肝要なことの いろいろな問題を比 ですが、 は ij 昔から ン マに直 物事を長 つでは 我が 玉 面

感謝 会の皆様の益々のご繁栄を祈念申し ますと共に、 本寄稿の機会を賜 山崎町 並び りまし に山 上げます。 崎文化協 たことを

視されている日本の少子化現 \vdash IJ レンマ解決のヒントは、 象も、 こん 長い目で見 な所にあるような気がし れ ば、 人口 が ま ゆ ます。 つ くりと 近

頃

題

適

正規 課

著者のプロフィール
昭和32年(1957年)生まれ。山崎小学校、淳心学院中学校・高等学校を経て、昭和55年(1980年)東京大学農学部農業工学科卒業。その後、東京大学大学院博士課程(農業環境工学専攻)に進学し、農学博士号取得。ブリティッシュコロンピア大学(カナダ、バンクーバー市)、CIRADモデル化研究所(フランス、モンペリェ市)、モンペリェ大学(同)に客員研究員として留学。東京大学農学部助手、東海大学開発工学部助教授、千葉大学大学院自然科学研究科助教授を経て、平成14年(2002年)より千葉大学園芸学部緑地・環境学科教授。

部緑地·環境学科教授。

小林郁子さんと悼じ

山崎歌人協会 栗 Щ

節

子

ら遺詠となってしまいました。

は惜しまれてなりません。 歌に精進されていた志ざし半ばの死 山崎歌話会にも入会され意欲的に作 され新樹会に復活、平成十二年には てより七年、心身共に元気を取り戻 逝去されました。肺癌の手術をされ さんが七月五日、 「短歌春秋」の第一同人小林郁子 長い闘病の末遂に

て凝縮されていて、壮絶に癌と戦っ 小林さんの人生がこの一首にすべ 昭和平成戦士のやうに働きて老 たる余生癌と戦ふ

い心境で詠まれています。残念なが られた喜びを病苦を超越した清々し この歌は今年のお正月を無事迎え と共に齢重ぬ 足早に去る年来る年吾を過ぎ病

> 花を咲かせ多くの佳作を詠まれまし 福をお祈りいたします。 た。ここに三首を掲げしずかにご冥 小林さんはまた、庭に四季折々の みやげにつくし一握り摘む たそがれの散歩は小さき吾の旅 鉢遊び心に蓮を咲かす しまひ置きし時代おくれの大火 老いの季節の速さを知りぬ 自づから春に目覚めて咲く花に

追悼の歌 山崎歌話会

に圧倒される思いがします。

てこられた晩年が偲ばれその精神力

みこころのこもる手作りクッショ ンを抱きて吾は君をとむらふ 土にもあらむ赤きポストは 美しくやさしき文を賜はりぬ浄 安東はつ子

稲村 幸子

散るごとく君は逝き給ふ

したね永遠の別れになるとも知 湯呑み茶碗を洗ひつつお話しま

癌といふ苦しき病に耐えながら 常に穏しき歌詠みましき

歌会に物静かにて才智ある短歌 づてのごとく老鶯三声啼きたり 黄泉路ゆく君の「さよなら」言 栗山 隆治

の蓮の花咲くお浄土の旅 菊の香につつまれたまふ写し絵 城内

花咲く黄泉路かそけく お浄土に帰ります君白き花赤き 森本千代子

たたびお声きくすべもなし 歌話会の君の常席に君あらずふ 隣席に教へをこひし歌ことば花

大井 千明

光代

詠まれし君を偲ばむ 節子

悦子

森本萬千子

智絵

各地短歌祭入賞入選作品

◇第十六回神戸短歌祭

(平成十六年度)

(四月二十九日・県民小劇場)

神戸新聞総合出版センター賞 それぞれに何を思うや恍惚の友ら

裕之

しずかに絵のごとく居る

• 入選一位

と四国の形を跨ぐ 雨止みて歩道に残る水溜りふるさ

◇第二十三回宍粟郡民短歌祭 山本

• 兵庫県知事賞 (九月五日・波賀町民センター)

たる如く呼ぶときのあり 退職をしてよりの夫迷ひ子になり

岡本 光代

神戸新聞社賞

古き巣をせわしく直し抱卵のツバ メ静かに目をつむりたり

久保みや子

波賀町文化協会長賞 定年のなき商ひに明け暮れてけふ も帰りの遅き夫待

安東はつ子

あと何回この田に田植できるのか ハリマ農業協同組合長賞 七十四歳一人の百姓

北 隆治

• 宍粟郡歌人連盟賞 フルエンザ嘆く声する 茹で卵打てば淋しき音になりイン

り生のごと空のあかるし むらぐもの片寄りゆきし夕つ方余 菅谷美津子

水路より流れ入りたる田の水は分 山崎 智絵

れひろがる意志あるごとく 山口 ひさ

◇西播磨短歌祭

(十月二日·西播磨文化会館

• 県立西播磨文化会館長賞

の床屋に髪切られおり 尾鰭つく噂話を聞きながら馴染み

山本 正子

たなき返す前の山より 口笛を返してやればウグイスのま

土方きみ子

嶋田 操 葉隠れに暑さをしのぐかたつむり

孤独は好きか殼より出でず

独り居の侘しさつのる休日に育つ

鬱あり水無月の雨

南 裕之

◇ふれあいの祭典⅓短歌会

(十一月十四日・芦屋ルナホール) 芦屋市教育委員会賞 と少年は未来の希望を話す ソーダ水が弾けるやうにつぎつぎ

光代

新樹会例会詠草

苗木より育て実りし富有柿一夜さ にして熊の餌となる

安東 恒雄

ひて屋根を葺く人 台風に泣きし人あり台風に仕事貰

小声なる会話に耳を遊ばせて待合 安東はつ子

室に長く順まつ 伊東まさ子

慣あらば抱きてやらむを 去り際の子と握手する抱き合ふ習

台風の通り道かも我が国は逃げる 上田 道子

しかない自然の猛威 大田 義吉

出しに残る疎開地の地図 着物もち物々交換をせし亡母の引

あと何回この田植機に乗れるかと 釜付 靖子

ふと思ひたり田を植ゑ終へて

お顔に水掛けまつる 法善寺の近火見ましし地蔵尊苔の 隆治

屋根の空ほのかほのかに明けゆき て鉄塔の灯の眠らむとする 日下ふさゑ

米寿にも近き小父さんシャンとし 栗山

節子

て三節連なる蓮持ち賜ふ

枯らしの門前に立つ 人気なき家に帰るが厭はしく夕木 佐々木タエ子

すけき思ひに腰をおろせり 傘も杖も今日は忘れず帰り来てや 田峰 定子

女が掌メガホンに呼ぶ 山裾に蕗摘みをれば下校途次の少 つな

小まめに螺子巻き居たり 文字盤の油じみたる掛時計亡兄は 安政 嘉子

山科 重子

葉会例会詠草

空洞も瘤ももちいる椋の木の根方 に祖も憩いたりしか

睡魔来て「浮舟」の講義きく耳に 伊野 和子

> わらびい餅」の売り声交じる 井口

いつの代に祖が墾きし田畑か高き 石垣にセメント

が傍に夫の在るごとき日よ 久びさの雨にこもりて短歌想うわ 林ハマ子

山子となりて実り田に立つ 金色の髪なびかせてマネキンは案

悪役は表情手ぶり混じえつつ舞台 科白をそらんじおりぬ 端子

萩すすきコスモスゆるる風道に吾 は入りゆく川に添いきて 戸田 葉月

林道を登りてゆけば父の夢はぐく 森元ゆきこ

む欅の二百本余り

おはようのカウベルかろく鳴らし つつ撫の林に歩み入りたる 森下 逮子

傷つきし青年のごと樹は立てり嵐 に折れし高枝を提げて 山口 ヒサ

にすくめる獣のごとし 台風に為すすべもなく籠る身は穴 山崎

横野 光子

俳

句

鶴林寺及び周辺を訪ねて

美しく歓声で車中は和んだ。 は桜の開花が早かったので花は期待 クロバスで午前九時出発した。今年 陽春の快晴に感謝しつつ、参加者十 していなかったが車窓から見る桜は 名は加古川市鶴林寺目指し、マイ 四月十一日青嶺句会春の吟行日、

鞋や重文の三重の塔が迎えて呉れた。 頃鶴林寺に到着、 稱され年中賑う名刹である。十時半 重文が数多くあり、 ・仁王門春塵かさね大草鞋 鶴林寺は聖徳太子の建立で国宝や 先ず仁王門の大草 西の法隆寺とも

干 里

仁王門大草鞋占め寺うらく

泊 水

層楽しくなった。 の話などしつゝ寺苑を巡り吟行が 私達を待って下さっていた。 (地元加古川市在住) 山門を入ると秦千里さんの妹さん がすでに来て

・久闊の姉妹睦まじ花の影

光

子

山崎俳句協

青嶺句会

福

田 泊 水

労りつ落花の下を姉いもと

良 子

めた。 碑が多く、 からの高名な俳人、歌人の句碑、 宝物殿等重文級の建物が多く、 に師五十嵐播水先生の句碑を探し求 広い寺苑には国宝の太子堂や本殿 一つ一つ観て巡った。 中世 特 歌

- 師の句碑の文字まろやかや花の下
- 句碑多き古刹を巡る春日

とみ代

君

子

尋ね来し師の句碑拜し春惜しむ

傘傾け句碑を撫で読める

春日

良

子

初蝶の飛び交ふ古刹座禅堂

栄

子

参拝者で埋めていた。

中でも着飾っ

 \equiv

光 子 花の昼暗さに在す朽ち仏

花の旅仏の里の鶴林寺

見られ長閑な春の午后であった。 た子を連れお宮詣りの夫婦も二、

花求め巡る寺々花づかれ

重

千代子

・都恋ふ片枝の松春の風

千

里

拍手のひゞく社や松の花

悲話残る片枝の松春の風

美保子

三代目五代目の松宮うらら

重

は神代に伊勢神宮のご神体の と云われ由緒ある神社で広い境内は あるお鏡が泊り着いた事から泊神社 最後に泊神社に参詣した。 泊神社 一つで

うらゝかやお宮参りの親子連れ

子

花吹雪溜め仏足石の大きこと 栄 白とても燃ゆる枝あり花満開

春うらゝ秘仏にそっと掌を合す

美保子

杖で差す遠山桜老の群れ

光

栄

千代子

事な松の枝振りに感銘した。 美しい長い松林を貫き尾上神社の見 後からも鶴林寺以外の名勝を訪ねた。 追われずゆっくり昼食が出来た。 会場が無く披講がないので〆切に 午

しつゝ六時前解散した。

ヒーを飲み、

楽しかった

一日を談笑

三時半帰路につく、喫茶店にてコー

泊

水

宮遅日謂の碑文丹念に

平成十六年 山脈句会

到来の新茶を分かつ新仏

栄

子

傑僧の色紙表装天高 浅田

蕪耕

池田

陶瓦

雪彦山の岩肌白き端午かな

幸子

海峡の波すれすれに春の鴨

大西 敦子

薫風や白きラケッ ト横抱きに

岡田 瑞穂

格子戸で一夜を明 かす雨蛙

山霧に包まれ棚田の彩かくす 栗山きよみ

竹添寿美子

惠

冬靄のきらめきまとひ山重畳

冬空に伐られし大樹悼むかな 藤井 七代	白鳥の飛来に募る旅ごころ 一	そ	日暮るれば風をつれ来し夏の月 川崎 栄子	梅雨しとど疊紙にある母の文字 - 電阪加代子	芽吹きまだととのはぬ岸運河ゆく	さわらび句会 山本 千代	新涼を戴き朝の写経終う 福田 祥栄	芒野に転がる光うつろひぬ 畑林 和枝花冷や懐紙に貰ふ金平糖
赤らここの揺れ始めたり峡日和 ひいな蒲公英	木枯が人間を貫ぬいている 永峰 香織コスモスに風の私語あり噂あり 中村 富子		指先に毛糸からめて冬近し 鈴木多恵女	青野にいる風の裂けめを見てしよりらし	右悩とはこころのありようねこじゃ鬼は外鬼は身の内にも潜む	一年 大村今日子 日名月世はしらじらと移りけり 神 風宣 風雨晴れやコバルトブルーの貝の夢	幼な児の眸にともしけう聖夜の灯 藍 千恵	朱倫句会詠草
日の舌延びきる厨日の永き 秋久 光子	鉄棒の子が蹴り上げる雲の峰 芦田 八重 関状来る一口一歳のお方より	青嶺句会詠草 岸野 皓馬	エリザベス・ロス逝く瞬間の右脳 宗平 圭司 大町と呼ぶ一反田菊月夜	それぞれの雲に髙さや秋の山 福井 泰好	まにあわぬことにもめげず糸瓜垂る自由へと屹立してゆく蕗の薹	冬帝の三泊四日の旅であり 小林 優一 小林 優一	利尻富士湖ひろびろと羊草 三浦 ゆき	稚児あやす弥陀の微笑む良夜かな 福井 清翠人許すことのむつかし白菖蒲
霧深し声かけ合ふて行者径	一三浦 ゆき峰々を墨絵の如く霧流る 和田千代子	霧晴るゝ女人高野の杉の闇 藤家 千代	七十路を共に育ちし冨有柿 秦 千里沈丁の香に偲ばるゝ人のあり	一徹の父も老いたり夕端居鳥羽チェノ	せせらぎに途切れる話芹を摘むって一村ゆるく動き出す。	孫が来て孫が帰りて松の内 不村 君子追ひ越せし人陽炎の中に消ゆ	朝霧の隙間を渡す高瀬舟 小畑 ぬい	闘病の日永の日々をもてあました谷 延子絵手紙のあぢさゐの毬はみ出して

\$\rangle Copts Cop

崎 山 鄉 崎郷土研究会 本 究会

呼び名と共に構成も変化し、 文化協会や私たちの郷土研究会は、 て行くものと思われます。 しますが、山崎町を名の頭に持つ、 本年四月より新しい宍粟市が誕生 拡大し

歩みを振り返り、 る事も、意義があると思います。 この時に当り、 短く、まとめてみ 山崎郷土研究会の

出されています。 昭和八年郷土研究会発足、会報 十三年、 和二十二年、郷土研究会再発足し しさは」発刊(八月)とあり、次は昭 志佐波」 本会の起源は、 郷土研究会再再発足と書き 発刊とあり、 山崎町史に見ると 更に昭和三

校長を幹事に据え、 長の一人にし、 史研究に燃え続けた人達は、 と旧山崎町が合併して三年後、 治町長を会長に迎え、教育長を副会 ますが、 |難期の為か、共に数年で休刊して 初会は戦時に入り、 昭和三十年に郡南六ヶ村 町内有識者、 挙町的文化団体 次会は戦後の 小中学 村上彰 郷土

> 部の三部制を採って活動しています。 をたたえ、 創刊百号記念会報を出し、先人の労 以来四十有余年、平成十四年秋には 会員の興味と研究を振興しています。 また、小集団見学会を持つなどして 書などにより、 前調査や当日車中のビデオと説明文 を主要行事にしていますが部員の事 としたので、一般の関心も高まり、 時は七百名の会員を持ちました。 研修部は毎年春秋二回の研修旅行 本会はこの会報部と研修部、 会員共に喜びとしました。 より深い研修を図り 史跡

事者の便を図っています。 して「山崎歴史街道」と名付け、 この標石が四十を越えたので、 懐古の情を興すよすがにしています。 して、道行く人達がしばし足をとめ を建て、その説明を裏書きするなど の史跡や文化財などを表示する石柱 史跡部は、 昭和五十一年から地域 図示 好

0 風土記の昔から同じ産土の神を持ち、 宍粟地域の郷土研究でありました。 い事になるでしょう。 眼で郷土を見て行くのもまた楽し つ地域の宍粟です。 山崎郷土研究会の発端は 「ししさは

山 崎 Ň 幡 神 社薪 能と宍粟郡謡曲 同好会

山崎謡曲同好会

山

中

陽

た。 もあられた壷阪壽氏を会長とした山 えられる山崎八幡神社の能楽堂で先 な風潮があり、 た。 同好グループに協力をお願いしまし とを決め、当時十団体に及んだ謡曲 崎八幡神社薪能奉讃会が発足しまし 会長であり、八幡神社宮総代会長で 言われたと伝え聞き、 奉納を自分の代に是非にやりたいと 祖の方が絵馬に遺されている能楽の 江崎金治郎師が元禄十二年建立と伝 ありました。 の先生の出稽古を受けている集りも 沢山のグループがあり、中にはプロ 宍粟郡五町には昔から芸事の盛ん 地域の皆様に無料公開とするこ 費用は有志の寄付によることと 昭和五十四年に第十世 就中謡曲については 山崎町文化協

楽に強い感動を覚えましたが、タク 背景にして特設舞台で演じられた能 した。ライトアップされた姫路城を 薪能を壷阪会長と一緒に観に行きま 立ち既に第十回となっていた姫路城 催することができました。それに先 正義師と当代一流の演者を揃えて開 治郎、康雄師、 上田照也師、杉浦元三郎師、 和五十五年十月に第一回 救急車のサイレン、近 狂言の茂山千五郎、 、江崎金 一薪能を

> 体一八〇人から九団体七十五人と減 ました。昭和五十六年三月の第一回 早春に合同発表会を開くこととなり 隔年となった薪能の舞台設営、 そのもので、 パチパチとはぜる音をBGに、笛鼓 少はしていま 会裡に行われ会員数はピークの十団 から平成十六年の第二十四回まで盛 と第一部としての発表会の外に毎年 曲同好会が大同団結する気運が生じ た。一方この薪能によって宍粟郡謡 の松も白く浮き出て感激一しおでし コロシアムの風情で虫の声、篝火の 幡神社の境内は森に囲まれた天然の をそがれました。それに比べると八 くで催されているライブの騒音に镼 大皮の響に乗った能楽の調べは幽玄 炎に照し出された鏡板 運営

員一同切望 ことを同 が来会され 新しい参加 ます。さらに と続いており 好者で和気藹々 てお待ちし すが熱心な愛 、ます。 好 る 者 第2回山崎能ご案内 平成17年9月3日出 サンホールやまさき 演目

能 張良 貨智 狂言 能 船弁慶

藤井徳三 茂山千作 杉浦豊彦

藤

山崎美術協会

岡 久 藏

うか。 ましょう。」と熱っぽく語られたの 築きます。」「この山崎の地にあった 崎の土が用意できた。」「窯は自費で は何年前でしたでしょう。 山崎焼(通称、源谷焼)の復興をし 美術協会の忘年会の時だったでしょ 陶芸家の山陽先生が「土は山

りました。 十メートル上に穴窯を築くことにな の「山崎焼窯場跡」の石碑から約五 その後、町の了承をえて、元山崎

先生のことですので、自分の手でや と作業をされました。先生のお人柄 ら大工さんまで全てをこなし、黙々 で屋根を葺き、まるで土木やさんか ベルカーで傾斜地をならし、 がり、チェンソーで木を倒し、 と作業をされていました。 でしょうか、いつも先生は一人で黙々 らないと気がすまないのです。宿命 ですので、頼まれれば幾人でも助っ 人はいたと思うのですが、職人肌の 山陽先生は、 暇あるごとに山にあ トタン ショ

もうすぐ完成というところで、長

ます。

度地拵えからとなりました。 地滑りが起き、 もう

です。その後、 身体にとって負担だったのではない でしょう。 た。山陽先生も共有したかったこと を興奮させ、 す。刻々と変化するその情景は、人々 ついに真っ赤な火が吹き出したので 夜半過ぎに煙突から火花が散り始め て音を立てて火が引くようになり、 内黒煙となって行きます。夜になっ です。最初は白い蒸気が立ち、その 火が入れられ、 窯の空焚きがされました。朝八時に 窯は完成し、十六年十一月十四日に 所で、先生は昨年九月に逝かれたの かと思います。 これらのことは先生 感動もさせてくれまし 徐々に暖められるの あと煙道だけという 清瀬先生のご好意で

せん。同好のものが相寄り相集って 二十日位かかるといいます。 人や二人の力ではどうにもなりま いよいよ完成です。一度焚くのに、 とても

見守って下さ 助け合い協力 ることと思い 生は期待され 焚く姿を、先 しあって窯を

観を始め思

山崎詩舞道連盟 田 明治

現代、言葉の中にも文化の重要性が 悪化し心の豊かさを問われています 言われています。 物の豊かさに惑わされ社会情勢は

現出来るかそれには心身共に健康で それから吟じる様にと常に教えて頂 私等は宗家より、 奥が深く大変難しい芸術と思います。 則して吟じなければなりませんので 精進していく事が大切と思っていま を吟じ伝える誇りを持ってお互いに 鍛え誠実に日本古来の伝統ある詩吟 なくてはなりません。心豊かに体を きました。作者の心をどうすれば表 えば先ず作者の気持ちになって読み、 すから作詩法や吟詠法など約束事に でもある詩吟は漢詩を吟じるわけで と思います。日本の伝統芸術の し、生き甲斐を感じる事も大切な事 詩の中にはその詩を吟じ乍ら感動 詩を吟じようと思 一 つ

えて本格的に考える時が来ました。 にしていくか」人生八十年時代を迎 人生常に喜びを求めあかるく考え自 「第三の人生どう実り豊かなもの

> 民として現代の複雑な社会を生き抜 吟じる度に心身の鍛錬に努め日本国 生き抜きたいと願っています。 きたいと心に誓うものです。 年を迎えました。日本古来の歴史を 詩吟を趣味として活動してより四十 信と希望を持って一日一日を大切に 私も

湧く」を信条として自信を持って将 来に向かって頑張っております。 私は常に「吟ずれば我が健康の泉

下がる思いです。 謝を申し上げます。 るく、楽しく、ほがらかにを「モッ 理解と協力があってこそと常に頭 たのも諸先生を始め先輩のお陰と感 永い年月素晴らしい吟を続けていけ 難し」の諺の通り反省の繰返しです。 努力しています。「言うは易し行い トー」に残された人生を送りたいと ふれあいを大切にして、和やかに明 十二年になります。地域の人々との 又只今ではゲートボールを習得し 又家族の格別の

し上げます。 会の益々のご隆昌を心よりお祈り申 終わりになりましたが山崎文化協



日 舞踊 は ら 表 現

健

康でボ

ラン テ

さつき民踊グループ

英美子

を

山崎邦楽邦舞研究会 間 豊巳千

場合は、お稽古をつけて頂く前に、 した扇を取り、 どの御流儀によらず、日本舞踊 匠の前に正座をし、右手で帯にさ 左手も使って膝前に

似が出来ても難しいと言われる意味 ありません。只身振り手振りは、真 がありますが、そんなに恐れる事は 又日本舞踊は難しい、と耳にする事 ら始まっているからです。この扇一 ないか…と思いがちですが、そうは そんな小さな事どっちでもいいじゃ を扱っていると、どっちに倒そうが、 側が上がっているのがよいのか、と のか、又その反対に手前に倒し向う のがよいのか、それとも向う側に倒 骨を上下にし、まっすぐ水平に置く 挨拶をいたします。大切な事は、そ 本の置き方に心が入っているのです。 いきません。なぜなら踊りは挨拶か 言う事である。普通何の気なしに扇 し手前が浮き上がっているのがよい の時に置く扇の置き方です。扇の親 「よろしくお願い致します」と御 ・が、真似の出来ない表現にある つまり踊りに対する謙虚さの度 踊る人それぞれの持っている持

> れる位、きびしいものです。一つ一 の置き方一つで、もう結果が読み取 けてはいけません。踊りは一本の扇 片づくものではありません。又片づ あり日本の伝統文化です。知と理で の心の変化も致しかたない事ですが、 ゆかしさが踊りに現れるものと…… とは、忍耐力も培われ、努力も実り、 押さえた扇を前に挨拶をし、お互が の人によろしくの挨拶をし、待って つはんなりと、にじみ出る表現が出 日本舞踊は、日本古来の伝統芸能で いる人があれば、お先にと、手前を る置き方があり、先ず師匠に、お願 からだと思います。扇に自分を控え 目おいた、つつましい中で学ぶこ 然し昨今、時代の流れと共に、人 相手役があれば、 そ

います。 努力して 場として う訓練の と心を養 来るよう と念じて 行きたい 自分の体

に向上することへの意欲もわきます。

一層稽古に励みさら

私事ですが健康管理の不注意によ

しているのですよ。」という言葉を 訪問してくださいね。皆な楽しみに

ご尽力と思っています。

さつき民謡グループは春の芸能祭、

力と編集してくださる委員の皆様の

とにして現在入院治療中です。 これから先のことを思い専念するこ メですよ。」と聞き、びっくりし、 より「このままだと五年もすればダ であまく考えていたのが、担当医師 ではありますがコントロールが必要 り人間ドックで検査の結果、 であるとのことでした。自分の判断 通院·

今つくづくと思い知りました。 が出来ることのありがたさ、幸福を 一人になって、健康で普通の生活

つき民踊グ 今後ともさ ております。 たいと願っ し、ボランティア活動を続けて行き

達の先生

(板東寿賀幸) のすばらし

を味わっているグループです。 して親睦を図り会員一同楽しく喜び 設等訪問をしボランティア活動を通 依頼があれば、老人会、敬老会、施 秋のふれあい文化祭に参加し、また

同じ踊りを発表するにしても、私

であります。

また訪問した施設の方より「また

れた時のすがすがしい充実感は格別 いご指導によりまして、きちっと踊



ています。それには多くの人のご協 記念すべき機関誌と聞きました。 で「やまさき文化」も最終号となり、 ます。来年四月には宍粟郡四町合併 にあわれた方々にお見舞い申し上げ さき文化」を楽しみに読ませてもらっ 毎年二月に発行されている「やま 今年は予想外の台風で多くの被害

る仲間と家族の理解を得て、楽しく 充実した日々が送れるようお稽古を に健康に気を付け、趣味を同じくす これからは意志を固く持ち、充分

ろしくお願 い申し上げ ループをよ

旧をつなぐ

バンブーファイブ 尾 嶋

私は尺八を四十の手習で始めまし

くなるばかりです。 では、 こでも古典芸能を習う人が大変少な が四、五十人ほどおられました。今 その時代には山崎町の尺八の先輩 七、八人の人数です。現在ど

うか。古い伝統の流派、流道にこだ 解しあい、それによって一つでも得 味線、尺八の曲と、お互にきいて理 ジャンルの音楽を邦楽会では琴、三 のではないでしょうか。青年会では くことが年に一、二回あってもいい 邦楽会と青年会と一堂に音楽会を開 の義務だと思っています。それには その音色を伝えるのは、私達年配者 やしの音色があるように思います。 がたくさんあり日本の楽器には、い たしむ事が大切だと思います。 わることなく、楽器の持つ音色にし る事があればいいのではないでしょ ロック、ジャズ、フォークといった 日本の古典芸能にはすばらしい事

き友にかこまれていたので、今日ま で続けて来られたと思っています。 十年あまりの年月が過ぎました。良 楽団バンブーファイブを結成し、

> がけ精一杯練習を重ね頑張っていま 聴いていただける演奏をしようと心 の賜です。私達もはりきり、楽しく 毎年芸能祭、文化祭、 に来て下さい。 行くと言った軽い気持ちで是非聴き す。子供、若者、どなたでも遊びに 寺住職、奥様、檀家の皆々様の理解 奏会をつづけています。これも随陽 の夕べ」と題し、もう五、六年も演 また随陽寺をお借りし「花と軽音楽 夜店に出演し

のパイプ役になれる事を願っていま 私達バンブーファイブ楽団も新旧



民謡にささえられ

山崎民謡連合会

田 陽

と家庭の事情で十年程お休みしまし 思った事か……。お三味線も自分の した。「なんで、こんな年寄りみた えられて五~六年過ぎた頃、子育て ました。月に一回くらいの練習でな 見て習いなさいと三味線を与えられ 意志ではなく、コーヒーを持つ手を して、奥が深く何回、やめようかと ところが、唄えば唄う程難しく、そ だワー」なんて気軽な気持ちでした。 いな歌、このくらいの歌なんか簡単 んとか自分なりに…。仲間にもささ に勧められて民謡教室に通い始めま もう、三十年前になりますネ。

手と右手が覚えていてくれたんです。 ち方も忘れる程でしたが、なんと左 う一回やってみようと思い入門しま 時々、口ずさんでいました。私の体 手ながらでも先生に一生懸命ついて 体が覚えていてくれたんですネ。 した。お三味線も久し振りです。持 に民謡が住みついていた様です。 ていましたネ。日常生活の中でも、 テレビ、ラジオの民謡番組は、 唄もお三味線も本当に 下 見 5

> 夫婦愛、 められています。 楽しいひと時がありますから…。老 ケ防止にと続けようと思っています。 いて行くにも不安がありますが、ボ と言う事はありませんが、仲間との 奥の深いものがあって、これでい 米節」なんですが、物の大切さ、 民謡を一曲ご紹介しましょう。 感謝の心等、 色々な事が込

金が成る 木がないとはウソよ、辛抱する木に 踏めば小判のあとがつく、 末にならぬ、米は我等の親じゃもの 二、米のなる木で作りしわらじョー 一十八度の手がかかる、お米一粒粗 一、米と言う字を分析すればヨー 金の成る

ず末長く はヨー 尾上、高砂、曽根の松、わ しとお前は二葉か松よ、色も変わら 三、千代に八千代に変わらぬもの

ごすのは難しいですが、少しでも心 人生なかなか、この思いを胸に過



す。老若男女 ればと思いま 頂ける様、こ 良さを知って 問わず民謡の と思っていま 懸命頑張ろう れからも一生

部名

崎町芸能保存会 (都多獅子舞保存会)

平 圭 司

造り、 約 10 奉祭したとされています。 西暦八二八年桓武天皇を氏神として、 伝えられ、また、神社の梵鐘には、 この地で崩御されたので墳墓(杜)を 和神社は、狩猟ずきの桓武天皇が、 Ш |崎町の 畑北進したところにある桓武伊 神として奉祭してきたと言い 中心部から、 蔦沢の谷を

ようです。 るものとして獅子舞の奉納を始めた 減少から不可能となり、これにかわ をお供えしていたところ、年々猪の 狩猟を好まれた天皇の霊を慰める 毎年六頭 (当初十二頭)の猪

まで伝承されています。 村へ赴き、修得してきたものが現在 明治十年、村の有志が大塩、 的形

(,) 校の五、六年生に担当してもらって から、平成七年に二種目を都多小学 に奉納しています。まわし手の不足 保存会として再結成し、毎年秋祭り 昭和五十八年九月に、都多獅子舞

> わず、 習への取り組みは、 があります。 も続きます。 んが、それぞれの仕事の疲れもいと まわし手・お囃子・指導者の皆さ 熱のこもった練習が一ヵ月半 なかでも、小学生の練 目をみはるもの

の前で、 発揮し、拍手喝采を受けました。 大祭当日は、 日頃の練習の成果を十分に 地域の多数の参拝者

統ある獅子舞が、 り称賛の言葉をいただきました。 究会」のアトラクションに、小学生 秋のふれあい文化祭」への出演。ま そして保存会員の手によって、立派 る都多の里で、このような歴史と伝 が二種目を披露し、参観の先生方よ で開催された「宍粟郡へき地教育研 た、十一月十八日には、都多小学校 に継承され、秋の大祭にいつまでも 続いて十一月三日には「やまさき 過疎化、少子化、高齢化が加速す 小学生や青年層、

奉納できますことを願っています。

間会社を退職して故郷に戻ってきた 活の意味がありません。 のコミュニケーションがなければ生 と楽観していましたが、やはり人と れていた私でした。しかし趣味は多 でまわりは見知らぬ人ばかりに囲ま たまにしか帰省しなかった私が く退屈しないでなんとかなるだろう が一昨年でした。そのときはまる 十八歳で山崎町を出て四十数年間 民

働いていたようで囲碁は り余裕もなく一心不乱で やったものですが、社会 台で大人に混じってよく いでした。 なってきました。その一 今、ようやく同級生・知 縁遠いものとなっていま つが囲碁クラブでの出会 人になると会社人間とな 人以外で顔見知りが多く それから丸二年経った。 囲碁は昔、縁

ことです。三手先も読めませんが、 あります。 ています。私の碁の楽しみ方は二つ です。もちろんボケ防止にも役立っ つ人の性格がなんとなく表れること 囲碁の面白さは勝負だけでなく打 ひとつは次の一手を読む

> 味だろうと思います。 みることです。 うひとつは絶対死なないだろうと思っ 中がパニックになって困ります。 ているときは次の一手が読めず頭の ている場所を詰め碁のように解いて めるような気がします。 これらは囲碁の醍醐 反対に負

う言葉がありました。碁盤の四隅か 囲碁の十章に「方円貴調和」とい , ら相呼応し調和のとれた石 も一生に一度しか出会いの を打つことだと思いますが、 期一会」であり、これから しいものだと願っています。 活のリズムがこうあって欲 余生を送る人間としても生 ないものとして、 右の銘でした。それは「一 退職して再び囲碁に出会っ しみたいものです。 いように皆さんと囲碁を楽 て思い起こしたのが私の座 悔いのな

恒

義



山崎囲碁同好会

勝っている碁は相手の次の一手が読



伝統文化を子どもに・・

「崎町子ども茶道教室を開

山崎茶華道協会 畑 欽之助

と活動を展開してきました。 向上と地域社会の浄化・文化の発展 や親睦、研修を図りながら茶華道の に少しでも寄与するため、いろいろ 五年。その間、 本年は特に次代をになう子ども達 崎茶華道協会が結成されて三十 会員相互の連絡協調

から、 これを継承してもらいたいとの願い り早速、教委社会教育課を通じ申請。 で「伝統文化子ども教室事業」があ を受けた「伝統文化活性化国民協会」 道教室」を実施することに決定。 に日本の伝統文化を理解し、さらに 幸いにも昨年度から文化庁の委嘱 通常の事業に加え「子ども茶

ことに。 役員さんが交替で担当していただく から三年の十七名。指導は当協会の 部に応募してくれたのが、小学一年 町内全小中学校に呼びかけ、秋の

七月に認可を得た。

返し、わかりやすく説明 いただき方 低学年が殆どのためやさしく親切 まず、茶道の心 あいさつの仕 帛紗さばきなどを繰り 席入り お茶お菓子の

基礎を習得し、盆略点前まで行える 全七回と短期間であるが、 茶道の

> 的に指導を願っている。 ことを目標に講師の先生方には献身

上手においしくいただいた」「帛紗子ども達からは「お菓子やお茶を した」などの感想も。 ようになった」「あいさつができだ さばきはむずかしかったが、できる

る。 しでも感じていただければ幸いであ つけ、感謝の心と人と人との和を少 子ども達が伝統文化の茶の湯を身に 又、冬の部も募集する予定であり

物の文化を育てるため、我が国の伝 引き継ぎ活性化させ、更に現代にふ 験させその意味を考え、しっかりと 統文化を育ち盛りの子どもの頃に体 子ども教室があるので、日本人の本 茶の湯のみならずいろんな分野の

る。 うものであ に展開して いことを願 いただきた



お茶の話 昭 和 庄 会 清

始まり一般化したのは八世紀以後と 使用され、 いわれています。 お茶は中国で紀元前から薬として 喫茶としては四世紀頃に

を通り西へ伝わっていきました。 中国で栽培されたお茶は、二つの道 ています。お茶は中国・雲南省やビ 在は福建省で多く栽培されています。 ルマ北部で自生していたもので、 たのが日本のお茶の原点だと云われ たのを明恵上人に贈り、これを植え 祖栄西禅師が中国から種を持ち帰っ 日本へは、 鎌倉時代に臨済宗の 現

クロードを通って中近東や北アフリ てヨーロッパへと運ばれ、 船積みされ海のシルクロードを通っ した。もう一つの道は、 カへと伝わり、 "チャイ"と呼ばれるようになりま といわれるようになりました。 一つは隊商達の手により陸のシル と呼ばれたお茶が訛って『ティ 広東語の茶が訛って 中国の港で 福建省で

> 全発酵させると紅茶となります。 分発酵させたものがウーロン茶、 茶葉を発酵させないのが緑茶、 完

り入れて飲みます。 小さなガラスコップに砂糖をたっぷ アフリカの人達は主に紅茶ですが、 陸路運ばれたチャイ。中近東や北

を 長い時間粘っています。 の社交場で甘いチャイを飲みながら イランやトルコでは喫茶店のこと "チャイハネ"といい、 男性だけ

う心で、訪問者には甘いチャイでも てなすのが基本となっています。 過酷な環境の中で育まれた客人を想 又、サハラなど砂漠の遊牧民達

に深く浸透していきました。 気分を満喫するには紅茶が最適で、 なり、これが階級を越えあらゆる人々 アフタヌーンティー等優雅な習慣と 気となりました。王侯貴族達が贅沢 ッパの中でも特にイギリスで大人 一方海路運ばれたティーは、ヨー

のとなっています。 生活の中になくてはならぬ大切なも として社交的な要素も合わせ持つ、 ものを楽しみ、 の人々の心を癒し、 お茶は、 人種・地域を問わず多く 又″もてなしの心〟 お茶の時間その

でございました。 れは私が小学校四年の昭和十七年春 私事にて申し訳ありませんが、あ

の庭田開拓団に入植しました。 いて、旧満州国遼寧省盤山県輸樹台 私共一家は、中国大陸に大志を抱 同開拓団は旧染河内村(一宮町)

生を図る国策でした。 國防衛と食糧増産や日本の農村の更 楽上を謳っていましたが、実は満州 り命名された団名でありました。 半を占め、同村の氏神、庭田神社よ の分村計画により、同村出身者が大 当時、満蒙開拓は五族協和、五道

戦日は十五日ですが僻地の為、 そのままシベリアに抑留されました。 後の召集兵として奉天市に出征して、 昭和二十年七月父に赤紙が届き、最 伝達が遅延)その日、開拓の全ては ようやく開拓が成功したと思った、 冬期零下二十度を超す酷寒の地で、 それから半月後の八月十六日 (終

潰えました。

理想郷、満州国は日本の敗戦と共に 消滅したのです。 神国日本が敗けるとはまさか・・・

誰 でありました。 かの詩が身に沁みる異国での終戦 「故郷は遠くに在りて想うもの」

た。 奪され軒並み炎を噴き上げていまし ばかりで鎌や棒を持った土民に囲ま しました。振り返ると村の家々は略 れ、身の回りの物だけを持って避難 男を召集された村は老人と女子供

頃の良き日本の故郷をどれ程に夢み たことでしょうか。 その日より避難と困窮の内に幼い

二十一年六月一日でした。手には毛 上陸出来た時は、感無量でした。 布一枚と水筒だけでしたが、日本に た私が佐世保に帰国出来たのは昭和 引揚げの許可が出て、妹を背にし

姿が涙で霞みました。 米のおにぎり二個のおいしい味をゆっ より望んだ、 くりかみしめながら、公会堂の東窓 上山に在った山崎公会堂で頂いた白 六月三日に山崎町に帰郷して、最 故郷河東村の愛宕山の

はっきりと想い出します。 の時のふるさとの遠景を今でも

川柳とは何ぞや

川柳破丸会

田 酔 仙

破丸会です。
この度新しく加入致しまし た川

柳

していただきますよう、がんばって 込んで、川柳本来の味を皆さんに食 いきます。 山崎町文化協会に清涼な風を吹き

一、世の中を鋭く風刺する。 さて川柳本来の味とは

一、こっけいさ、ユーモアを取り入 れる。

三、隠れた所を見つけ、 捉える。(うがち) 本当の姿を

五. 四、軽妙な洒落を使う。 の目線まで下ろす。 社会的に地位の高い人を、 自分

んも一緒にやりませんか。 の川柳ですっきりしましょう。 もやもやとした気分を、十七文字 皆さ

破丸会の最近の作品

どちらまで挨拶代わりに聞いただけ 岸本 新風

聞き上手ほんとは何も聞いてない 谷口 遊愉

うちの犬花火見上げてワンダフル 風筅 古希の身に一言多い母が居る

玄関に猛妻注意と書いて貼る 志水亀の子

運動の主旨わからぬが署名する 笑雅

宇都宮鬼ヶ城

小型犬でかい態度でルス守る 平形 秀柳

狸寝し水着眺める海の家

万来

老骨にムチ打ちたいが骨粗鬆 柳幸

神頼みするけど亭主に頼まない 釣遊

濡れ落ち葉剥がしたいのに離れない くつろげる湯の旅終えた家の風呂 花夢

山本

山水

紙コップ片手に医院で立ち話 カラフルな薬を並べ今日も活き 欽酔

清水 三省

新札に載る一葉は厚化粧



赤 有林でモミジの観察会

山崎植物同好会 <u>H</u>: 雄

井口武一先生で楽しい観察会となり 郡内の各地で植物観察会をもよおし 林でモミジの観察会を実施しました。 講師は山崎植物同好会副会長の、 崎植物同好会は毎月一回、 十一月は波賀町赤西国有 宍粟

されます。 大阪、 会員も宍粟郡内をはじめ、 姫路, 神戸方面より多数参加 遠きは

降り、林道を進みながら、井口先生 間後に赤西に到着し、全員自動車を しだ類を観察、 ニヒカゲワラビ、 オオモミジ、ハウチワカエデ、チド であり、赤葉ざかりのイロハモミジ、 観察し、楽しい時間を過ごしました。 の説明を受けました。珍しい植物を 家用車に分乗し出発しました。一時 所である、山崎小学校前を会員の自 察会は晴天に恵まれ、 のキを観察し、地上には珍しいオ 秋の赤西国有林は、モミジが有名 十一月十四日(日)のこのモミジ観 ヤマソテツ、 説明を受けました。 リヨメンシダ等の イワハリガネワラ 毎回の集合場

> 解散しました。 午前十一 一時半 頃 弁当を食べ現地

して下さる、 戸市の古池末之先生、 同好会を運営指導助言と会計を担当 きのこの専門家、鳥越茂先生、植物 の会員に案内状を発送して下さる、 る内海功一先生、井口武一先生、 大に実施できるのは、指導して下さ こうして毎回山 伊藤一郎先生、 崎植物同好会が盛 毎月百数十名 植物同 神

のお力で 氏の方々 視 昌志氏、 藤村清一 好会員 氏、石田 導助言し 好会のあ を植物同 あること て下さる り方を指

赤西国有林のモミジ観察会

ています。 同感謝し

待してのじゃがいも掘りや年末の山 を生かして幅広いテーマで活動しま 視察報告など各会員や班構成の特長 部での月例会を中心とした活動で会 的とする平成会は、これまで五年毎 地域の文化振興に寄与することを目 でも地域で自主活動されている「農 施しています。 崎八幡神社カウントダウンなどを実 した。対外的な活動としては例年の 行政についての懇談会、会員の海外 今年は、「川柳」に挑戦したり国際 実施してきましたが、通常年は会内 に周年事業として大きなイベントを の方々にも楽しんでいただきました。 は山崎町だけでなく近隣地域の多く のテノール歌手 新垣勉コンサート 年の記念事業として実施した ごとく町内幼稚園児・保育園児を招 金融や地域経済・金融勉強会、 員同士の研鑽や親睦を図っています。 で十六年目となります。 また今年は、 昨年十五周 地域

なけ域 て文 動幅化 広振 継く興 続地に

道向地 成元年に発足した平成会は今年 成 会 良 造

> 林体験の会」 への参加・交

の皆様により ができ、地域 動を催すこと などの対外活 ニコンサート 流や、公開ミ

思っています。 ではないかと いただけたの 身近に感じて

例会に出席できなかった会員のため と思っています。 う情報発信にも力を注いでいきたい にも会の活動を知っていただけるよ にも努めています。今後は外部の方々 事項の伝達などでスムーズな会運営 ムページを活用した例会報告や連絡 と確実な活動記録保存のため、ホー の規模で活動しています。また、月 たが、今年は二名の増員を図り従前 どもあり若干実動会員数が減りまし 近年会員の長期海外出張や急逝な

も寄与できればと願っています。 るような小イベントにも積極的に取 に他の地域活動との交流やミニコン ませんが、地道な内部月例会ととも 裕の面からも大きなイベントは持て サートなど、一般参加していただけ 通常年は予算上も会員の時間的余 地域の文化的発展に少しで

をすることにしました。するとあち 達の舞台も終りに近づき、自己紹介 と改めて考えさせられました。子供 謡になり「はるがきた~ こいのぼ 静かに聴いていただきましたが、童 会場へ行く前は、どんなおじいさん、 唱歌をたくさん用意して行きました。 らこちらで「○○さんとこの子やなぁ えて共有できるものって大切だなぁ の緊張もほぐれ、あちこちで口づさ めは、子供達のオリジナル曲なので 方々でした。演奏会がはじまりはじ て行くと、とても素敵な元気一杯の おばあさんがいらしているのかと思っ なじみのある曲を歌おうと思い童謡 の度は、 ル曲を歌うことが多いのですが、こ いつもでしたら子供の為のオリジナ 合唱団に演奏会の依頼がありました。 んでいる方もありました。世代をこ 昨年の秋、 ささのは~」と続くと、皆様 敬老会ということで皆様に 門前の婦人会の方から

> し上げます。 下さった門前の婦人会の方に感謝申 すばらしい交流のきっかけを作って 様に愛される合唱団でありたいと思 と感じました。これからも町民の皆 町の中に響きわたらせたらいいなぁ どん町の中にでかけて行き、子供達 の前で歌う楽しさも子供達はおしえ が、町の中に入って、 せていただくことが多い私たちです います。最後になりましたがこんな の素直なかわいらしい歌声を山崎の ていただきました。これからもどん いただきました。大きな会場で歌わ 「○○ちゃんやなぁ」と声をかけて 知っている方々



和太鼓を叩ける喜び

播州山崎太鼓 吉 水 純

子

舞台に立ち、 切っ掛けでしたので、このような大 教室入門の理由は太鼓を叩いてみた 部は撥を持ち始めてまだ一年三ヶ月 達、文化会館和太鼓教室一般初級の ある十三団体の演奏演踊でした。 月十七日午後一時から山崎文化会館 たです。 が一番驚き、 い・運動不足・ストレス解消等軽い 代の九名も参加させて頂きました。 演奏・ソーラン踊り・実に見応えの な撥さばきの各団体・ゲストのプロ に響け!心に届け!和の鼓動!が十 で開かれ、 技術も未熟な二十才代から六十才 「日本和太鼓フェスティバル」 可愛い子供太鼓から高度 そしてとても嬉しかっ 演奏できるとは自分達 私 Ш

ものでした。後から聞いたのですが、ものでした。後から聞いたのですが、その舞台裏では先生方中心のスが、その舞台裏では先生方中心のスが、その舞台裏では先生方中心のスが、その舞台裏では光生方中心のスが、その舞台裏ができた程の満員当日は立ち見席ができた程の満員当日は立ち見席ができた程の満員

叩ける いと思います。 曲に悪戦苦闘しながら、 ることを忘れず、 ろ姿に魅せられ、 鼓大好き!和太鼓の魅力を沢山の方 遅くまでの打合せがあったそうです。 番前日ギリギリまで意見を出し合い の伝統が和の音が の仲間と共に元気に、時には新しい をするにも大勢の人に支えられてい 裏方のそのまた裏では、 へ伝えて行きたい!」その思いの後 パワー溢れる若い指導者の「和太 ^{*}今* に心から感謝し、教室 惹かれながら、何 を楽しんで行きた 大好きな和太鼓を 今後も日本 先生方が本



私の生きがい

山崎町合唱連盟 香 山 絹 了

> います。 でした。これからも皆と一緒に心を 播磨音楽祭」への出演と充実した年 つにして合唱をしていきたいと思

ふれあい文化祭」 十二月五日の 西西

崎

文化協公役員

及び団体





ち遠しいです。

合唱の楽しさは、

皆と歌うことだ

ん仲良くしてくださり、

練習日が待

歌が大好きなので、

とってもうれし

山崎合唱団にさそってくれました。 PTAコーラスで一緒だった友人が りに山崎に帰って来ました。その時

平成十年に主人の転勤で二十年振

かったです。へたな私ですが、皆さ

皆と一緒に歌ってうまく三重唱、 なかなか思うように歌えませんが、 と思います。一人で練習していると

四

重唱ができたときは感動します。

天災、人災等、とかく暗いニュー

副会長 会 長

事

久宗 春名 丑雄 山崎植物同好会 山崎郷土研究会

委

理

芦田山志田中國水 伊野 谷川 浅田 竹添 慶子 和彦 節子 久藏 操治 ヒデ 泰子 昭和会 新潮会 さつき民踊グループ 山崎町郷土芸能保存会 山崎謡曲同好会 山崎茶華道協会 山崎囲碁同好会 山崎歌人協会 山崎文学会 山崎俳句協会 山崎児童合唱団 山崎美術協会

前田久片野口保山 田谷 石千福西野田岡川 明治 澄之 播州山崎太鼓 山崎町合唱連盟 山崎詩舞道連盟 バンブーファイブ 播磨さつき会 山崎邦楽邦舞研究会

> 教育委員会 同次長 事務局長 同 亀井 井 河口 本 謙一 義武雅彦一視 (敬称略•順不同

やまさき文化」 編集委員

編集長 員 荒木 河本 稲村 井口 芦田 長川 雅耕幸武視一子一 俊介 悦 清 泰子 八重

監

達と一緒に歌いませんか?一度のぞ 生の指導で楽しく歌っています。私

て下さい。

春の「しそうの森合唱祭」「秋の

水曜日に聖旨保育園で、栗山裕子先 いやな事を忘れていいですよ。毎週 スが多い毎日ですが、歌っていると

事

平成会 昭和会 川柳破丸会 山崎民謡連合会



事務局だより

になりました。 町の文化協会も統合し、新しく宍粟 宍粟市の誕生を見ることになり、 市文化協会として誕生発足すること 平成十七年四月一日をもって新市・ . 一宮町、波賀町、千種町、四

域文化の発展に結び付くものと思い きてより充実した活動がなされ、地 とに従来の活動を引き継ぎ、 は足並みを揃えねばならぬ面もあり、 て行くことになりますが、ある面で しかし、当面は新市文化協会のも 漸次より広い文化活動も出て 継続し

ました。

りますようよろしくお願いします。 目指し、地域文化の発展にご協力賜 どうぞ、今後とも心豊かな社会を 事務局長 河 本 雅 視





集



記

二十四号の編集を終えることができ と想像しつつ、「やまさき文化_ でたのしいご活躍の様子をあれこれ をくわしくお知らせいただき、活発 んから、それぞれの所属の活動状況 つものことながら今号もみなさ 編集長 浅 田 耕

だきました。 葉大学教授の本條毅氏の寄稿をいた 有難うございました。 山崎町福原町ご出身で千

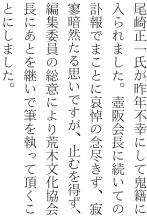
なさんにおとどけします。 示唆に富んだ氏の貴重なご提言をみ 問題について、まことに時機を得、 にとって最も深刻な悩みである環境 暖化のもたらす天災地変。 所のない人間の欲望が招いた地球温 きた昨年の台風、大地震。とどまる あろうかと思われる程頻繁に襲って 愚かさに対する天のいきどおりでも という名の破壊、暴力、その人類の あちこちでくりひろげられる戦争 今や人類

三

再度お世話になります。 表紙絵並びに挿絵は福岡久藏氏に

書いて頂きました。 ねがい、当山崎藩校に教鞭を執った 悦子さんという新しい書き手に登場 人物をモデルにした興味深い作品を 冒頭の小篇小説は本号は町

ろお力添えいただいた各位に深甚の たいと思っております。 を願い、清新な感覚の作品を掲載し 原稿依頼、校正、広告等々いろい 今後もできるだけ新しい方に寄稿





淡雄渾な筆を揮っていただきました 長期に亘り表紙の題字に文字通り枯

創刊号より二十三号まで、

デンソー指定サービスステーション 自動車電装品整備 • 携帯電話代理店

本社・工場 兵庫県宍粟郡山崎町今宿 98-15 TEL (0790) 62-1607代 太子営業所・姫路営業所・神戸営業所・福崎店



飛石機械産業 からのお願い ——

人が人として幸せになれる処方箋は何なのか、そのようなこと を考え「幸福の泉」を生活信条に、自作自演で40数年を歩いて参 りました。昭和46年、会社発足時に経営理念と改め、お客様のご 信頼にお答えする為に、一人の人間として使命感に燃え、それを 無限のエネルギーとして全社揚げて取組んでおります。

当社では、企業は社会の公器でなければと申し上げており、流 通の世界の中で生活文化の向上を願い、多目的に活躍しておりま すので、尚一層のご支援をお願い申し上げます。



料理旅館•割烹

創業 文久元年





兵庫県宍粟郡山崎町山崎287 TEL (0790) 62-1119代



幸せへの旅立ちに――

ふじむら貸衣裳

宍粟郡山崎町山崎181 TEL(0790) 62-0052

あらゆる印刷の企画から製品まで

^{株式} 支林館印刷所

宍粟郡山崎町山崎53 TEL (0790) 62-1147代 FAX (0790) 62-0081

用途に合わせて

にししん個人ローン

- ●住宅ローン
- ●フリーローン
- ●マイカーローン ●カードローン
- ●学貨ローン

・豊かな老後生活のために ・資産の効率運用に

にししん 個人年金保険

- ●変額年金保険



豊かな街づくりをお手伝いする



http://www.shinkin.co.jp/nisisin/



一献献上 品質本位

まごころを伝えます。

TEL. 0790(62)1010 FAX. 0790(62)6218



確かな品質と味わい。



SANYOHAI 山陽盃酒造株式会社 兵庫県宍粟郡山崎町山崎 28

安全で快適な生活をお届けする

JOMO 株式会社 ジャパンエナジー 特約店



本社 兵庫県宍粟郡山崎町中井96 TEL (0790)63-1234 代 (0790)62-4321 代

創業明治28年・さつき本舗





御進物・おみやげ・お茶うけに、四季折々の 真心こめた手づくりの御菓子を

本 店:播州山崎町さつき通り (電)0790-62-0170 山田店:播州山崎町山田(電)0790-62-0160 福崎店:福崎町西田原1177(電)0790-22-7555



パソコン・OA機器・事務用品・スチール家具 各種修理•学校設備品•理化学機器

・一オフィスサービ